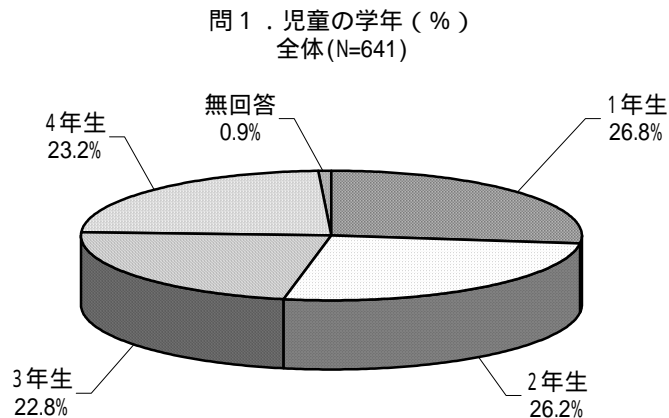


【 1 】 属性及び家族の状況

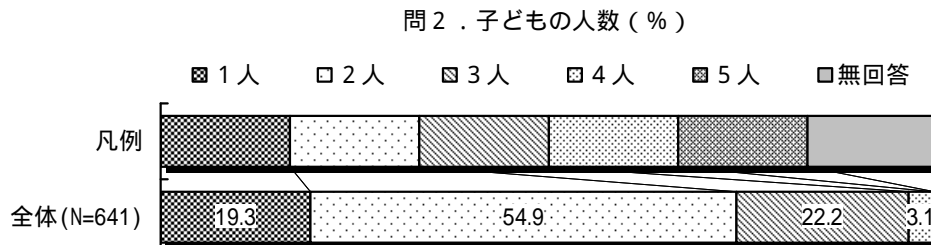
1 . 児童の学年（問 1）

子どもの年齢は「 1 年生」が 26.8%と最も多く、次いで「 2 年生」(26.2%)、「 4 年生」(23.2%)、「 3 年生」(22.8%)の順で分布している（設問は生年月ですが、学年で集計しています）。



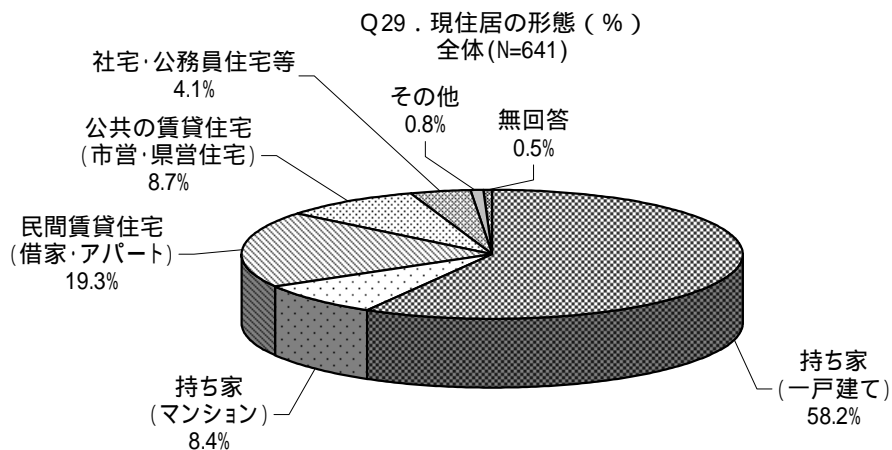
2 . 子どもの人数（問 2）

子どもの人数は、「 2 人」が過半数（ 54.9% ）を占め最も多く、次いで「 3 人」(22.2%)、「 1 人」(19.3%)と続き、これらで全体の大半（ 96.4% ）を占めている。



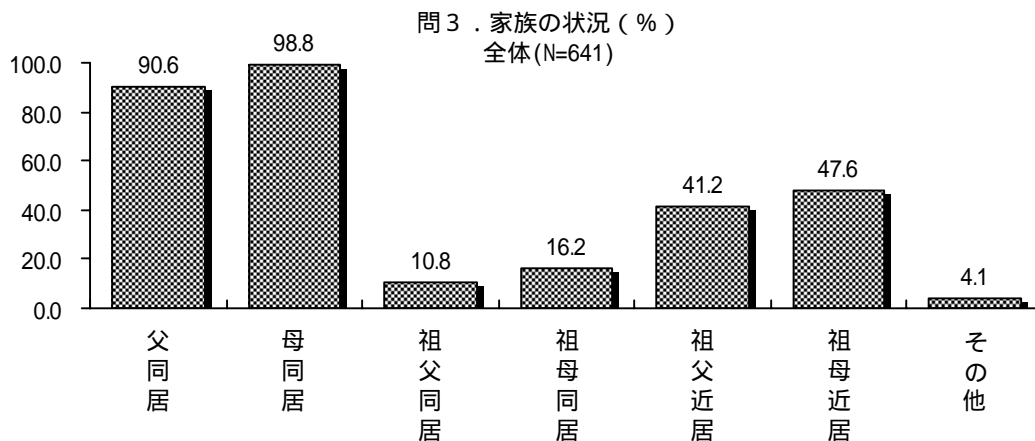
3 . 現住居の形態（Q29）

住居については、「持ち家（一戸建て）」が 58.2%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅（借家・アパート）」が 19.3%となっている。



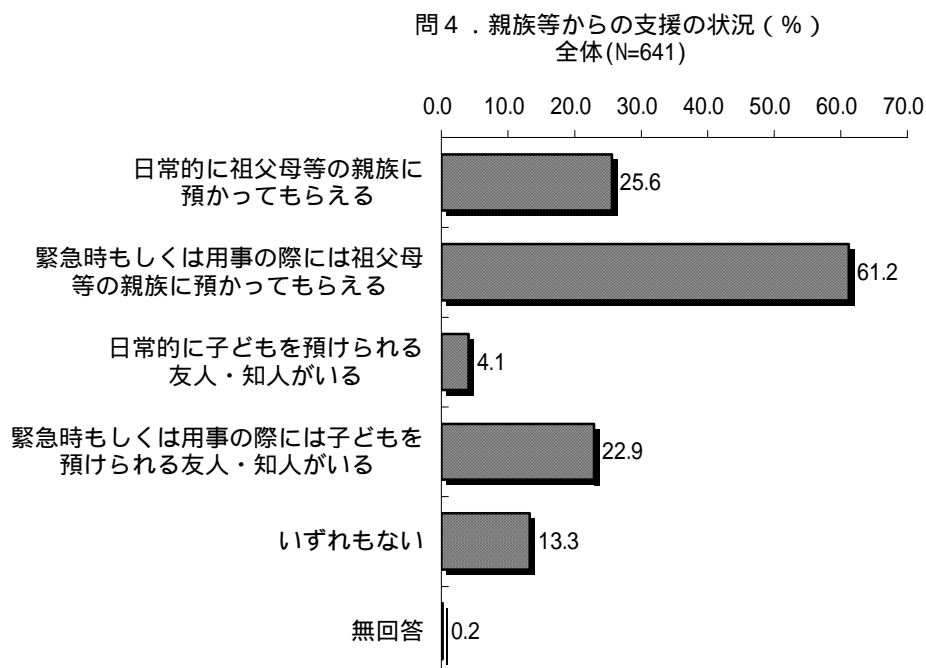
4. 家族の状況（問3）

家族の状況については、「母同居」が98.8%、「父同居」が90.6%と大半を占める。以下「祖母が近居」（47.6%）、「祖父近居」（41.2%）の順で、「祖母同居」は16.2%、「祖父同居」は10.8%みられた。



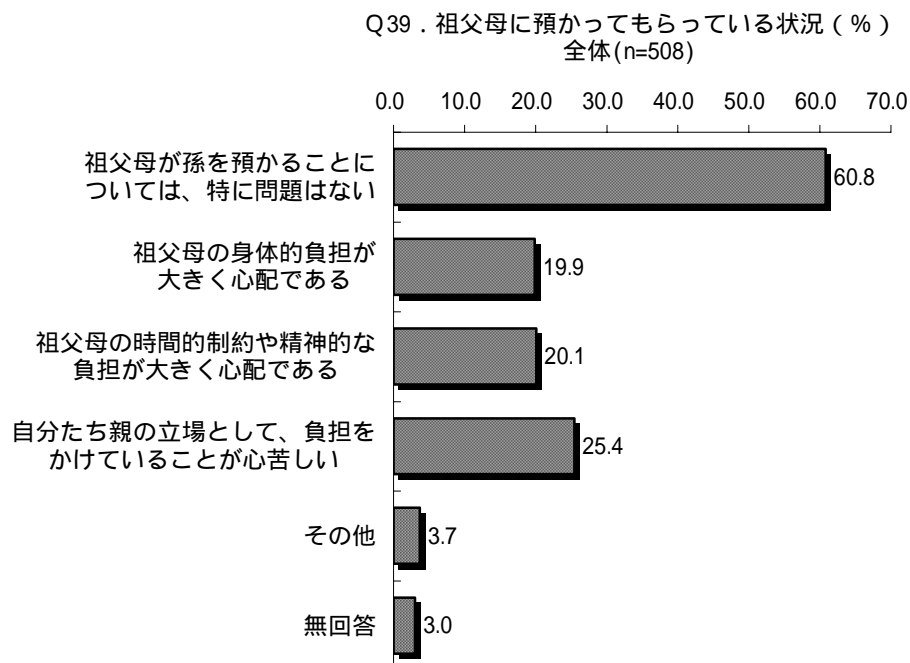
5. 親族等からの支援の状況（問4）

親族等からの支援の状況については、「緊急な時やもしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が61.2%と最も多く、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」（25.6%）がそれに続く。「いずれもない」は13.3%みられた。



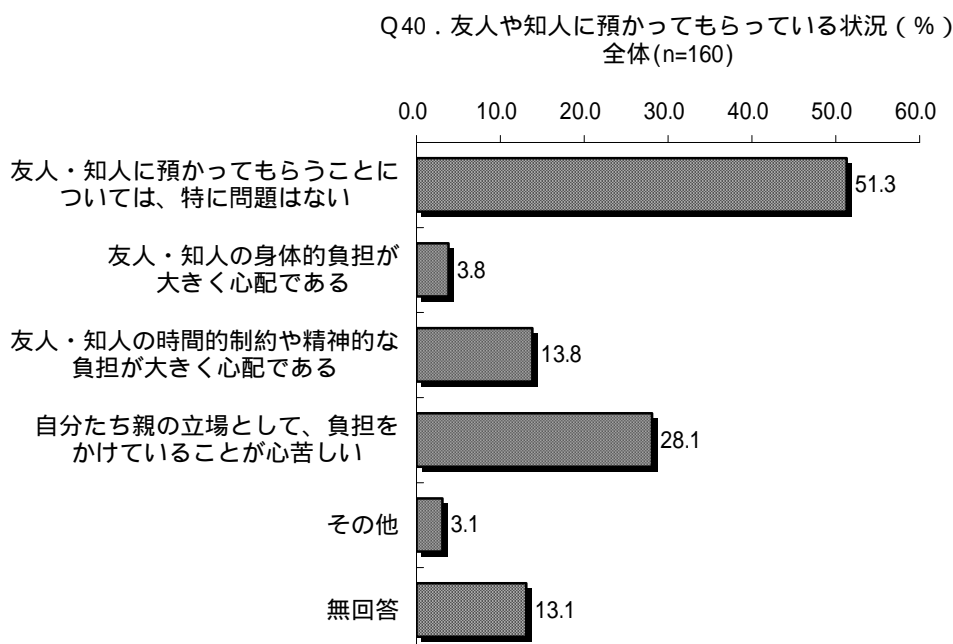
6. 祖父母に預かってもらっている状況 (Q39)

祖父母に預かってもらう状況について「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」が60.8%と6割以上を占めている。「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」は25.4%みられた。



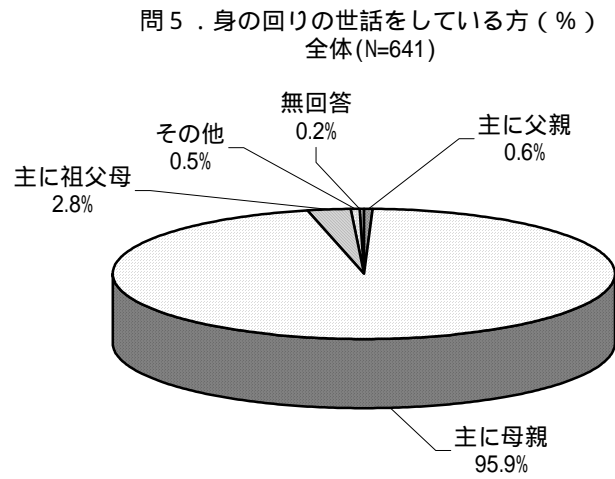
7. 友人や知人に預かってもらっている状況 (Q40)

友人・知人に預かってもらう状況について「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」が51.3%で最も多く、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が28.1%で続く。



8 . 身の回りの世話をしている方 (問5)

身の回りの世話をしている方については、「主に母親」が 95.9%と大半を占める。「主に祖父母」は 2.8% 「主に父親」は 0.6%の内訳である。

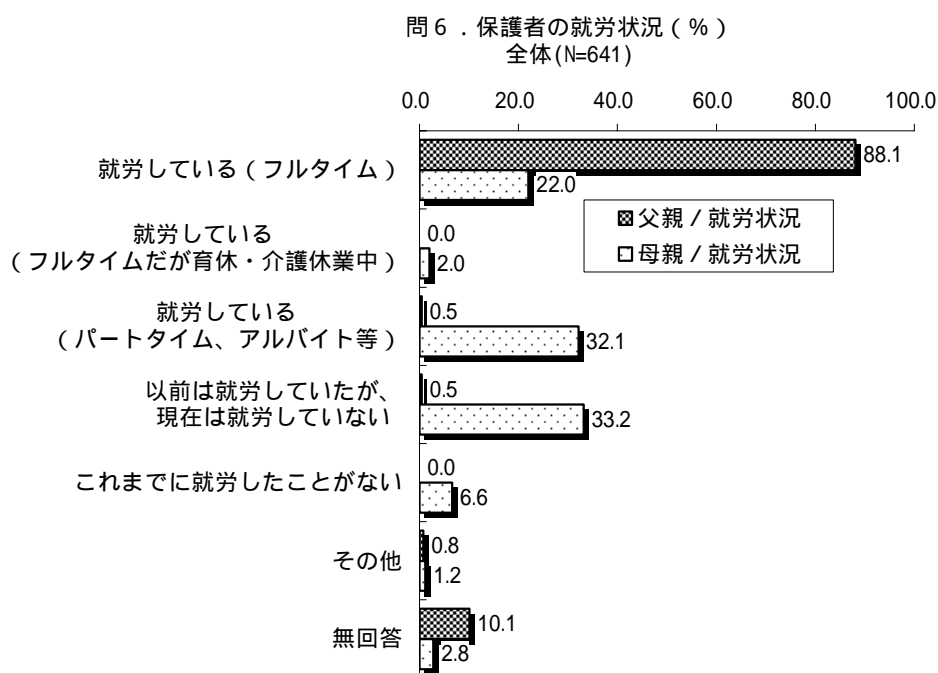


【2】保護者の就労状況等について

1. 保護者の就労状況（問6）

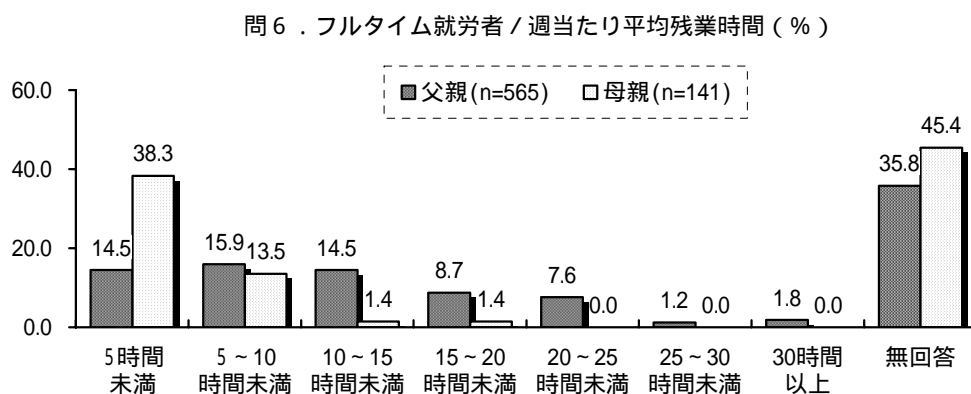
（1）就労状況

保護者の就労状況については、父親は「就労している（フルタイム）」が88.1%、母親は「以前は就労していたが、現在は就労していない」が33.2%、「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が32.1%と3割を超えている。「就労している（フルタイム）」は22.0%となっている。



（2）フルタイム就労者 / 週当たり平均残業時間

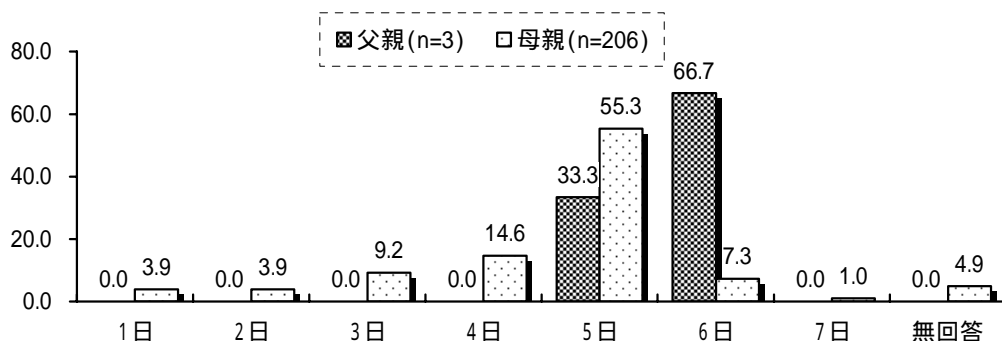
保護者の残業状況（週当たり）については、父親は「5～10時間未満」が15.9%、「5時間未満」「10～15時間未満」（各14.5%）の順となっている。母親は「5時間未満」が38.3%で最も多く、「5～10時間未満」が13.5%となっている。



(3) パートタイム・アルバイト等 / 週当たり就労日数

パートタイム・アルバイト等希望者における就労日数については、母親の場合「5日」が55.3%と最も多い。

問6 . パート・アルバイト等 / 週当たり就労日数 (%)

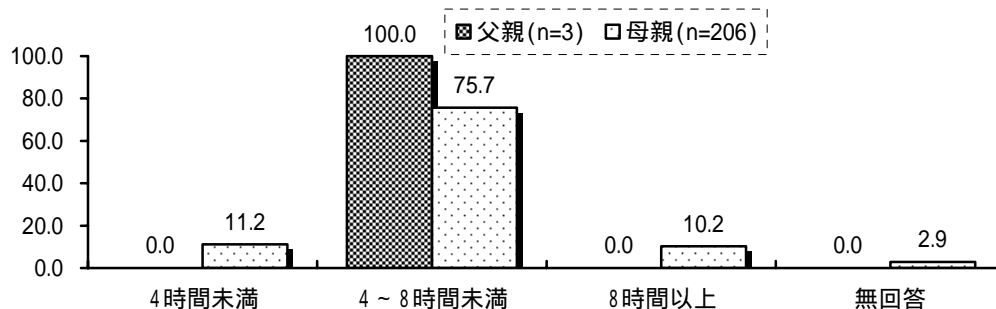


(注) 父親は基数 (n=) が少ないため、参考値として参照してください。

(4) パートタイム・アルバイト等 / 1日当たり就労時間

1日当たり就労時間については、母親は「4～8時間未満」(75.7%)が大半を占める。

問6 . パート・アルバイト等 / 1日当たり就労時間 (%)

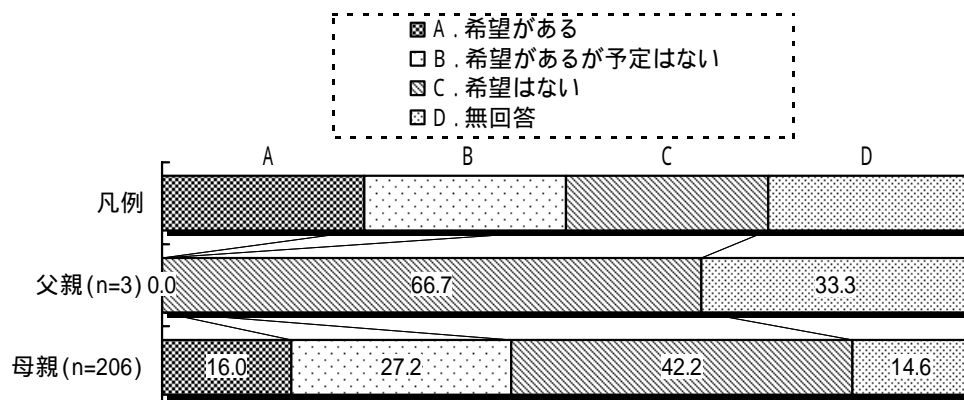


(注) 父親は基数 (n=) が少ないため、参考値として参照してください。

(5) パートタイム・アルバイト等の場合 / フルタイムへの転換希望

フルタイムへの転換希望については、母親の場合「希望はない」が42.2%を占めるのに対し、「希望がある」が16.0%、「希望があるが予定はない」が27.2%で、両者合計した希望者は43.2%となっている。

問6 . パート・アルバイト等の場合 / フルタイムへの転換希望 (%)

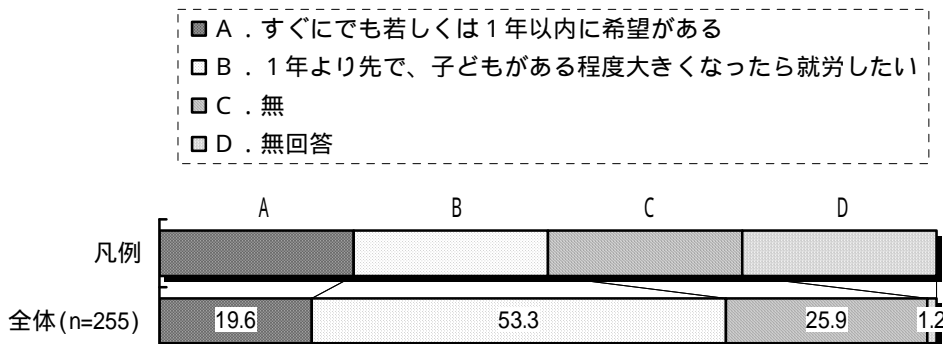


(注) 父親は基数 (n=) が少ないため、参考値として参照してください。

2. 母親の就労希望（問7）

母親の就労希望については、「1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい」が過半数（53.3%）を占め主流となっている。

問7. 母親の就労希望（%）

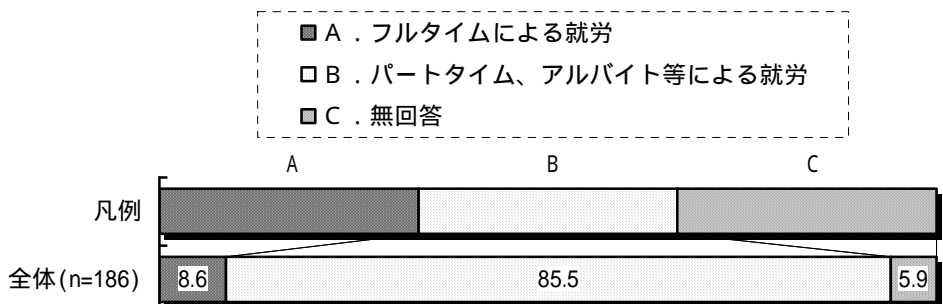


3. 母親の就労希望形態（問7-1）

（1）母親の就労希望形態

就労希望のある母親における就労希望形態については、「パートタイム、アルバイト等による就労」が8割以上（85.5%）を占め主流となっており、「フルタイムによる就労」は8.6%みられた。

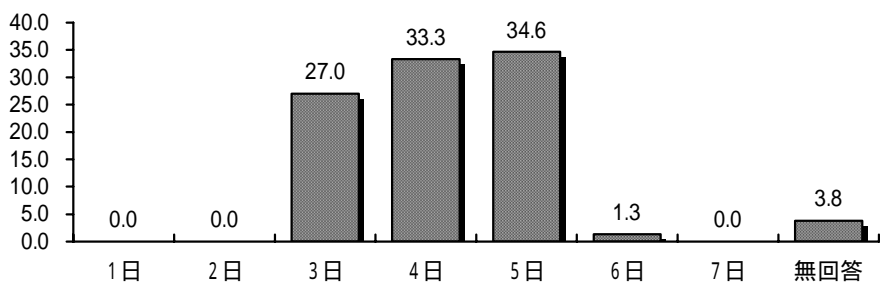
問7-1. 母親の就労希望形態（%）



（2）パート・アルバイト希望者/週当たり就労希望日数

パート・アルバイト希望者における週当たり就労希望日数については、「5日」が34.6%で最も多く、次いで「4日」（33.3%）、「3日」（27.0%）が続く。これら「3～5日（合計）」で大半（94.9%）を占める。

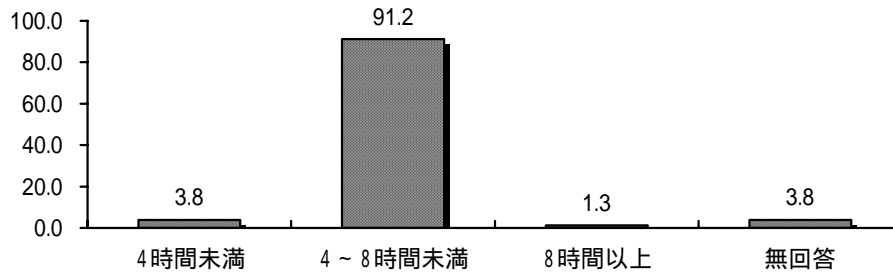
問7-1. 母親パート・アルバイト等/週当たり就労希望日数（%）
全体(n=159)



(3) パート・アルバイト等 / 1日当たり就労希望時間

働きたい時間(1日当たり)については、「4～8時間未満」が91.2%と大半を占めている。

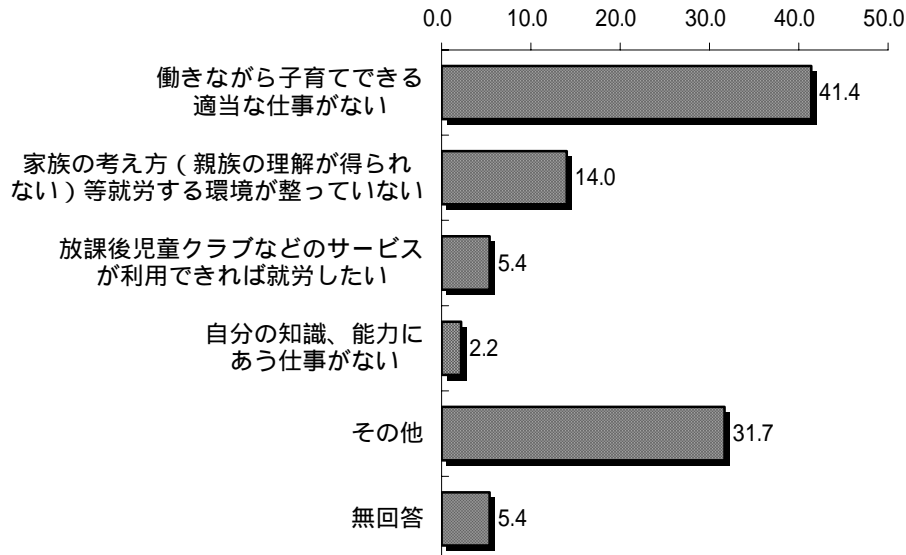
問7-1. 母親パート・アルバイト等 / 1日当たり就労希望時間 (%)
全体(n=159)



4. 母親の未就労理由 (問7-2)

母親の未就労理由については、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」といった就労条件に関することが41.4%と最も多く、「家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていない」が14.0%で続いている。

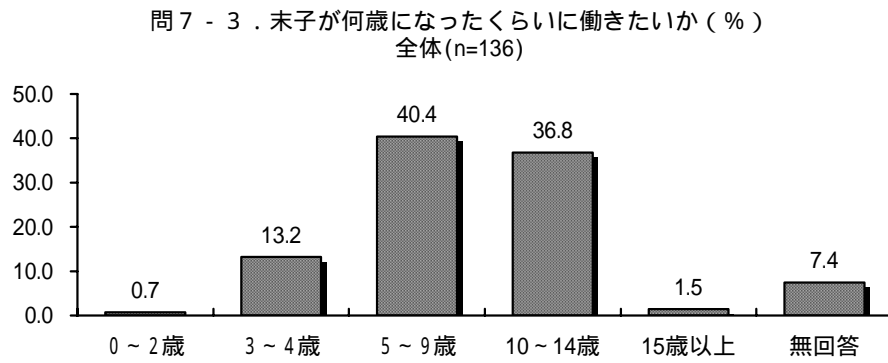
問7-2. 母親の未就労理由 (%)
全体(n=186)



なお、「その他」が31.7%みられるが、典型的な回答として「子どもが小さいうちは、家庭で育児に専念したい。」といった内容に類する回答が多数あげられた。

5. 末子は何歳になったくらいに働きたいか(問7-3)

上記設問において「1年より先で、子どもがある程度大きくなったら働きたい」への回答者における、「末子は何歳になったくらいに働きたいか」については「5～9歳」が40.4%で最も多く、「10～14歳」が36.8%が続いている。

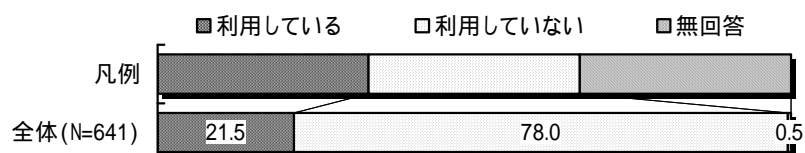


【3】放課後児童クラブの利用について

1. 放課後児童クラブの利用有無（問8）

放課後児童クラブの利用有無については、「利用していない」が78.0%で主流となっており、「利用している」が21.5%の内訳となっている。

問8. 放課後児童クラブの利用有無（%）

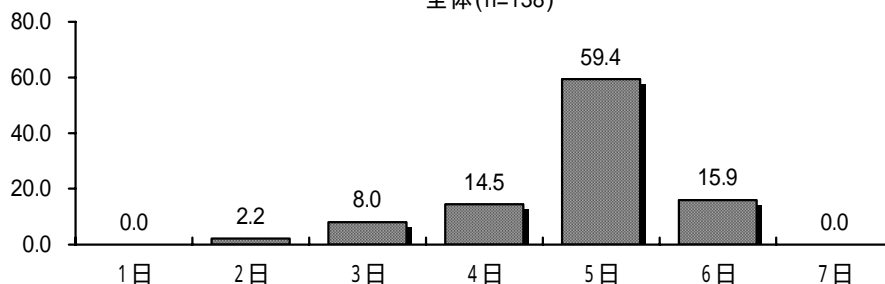


2. 放課後児童クラブ利用状況（問8-1）

（1）放課後児童クラブ/週あたり利用日数

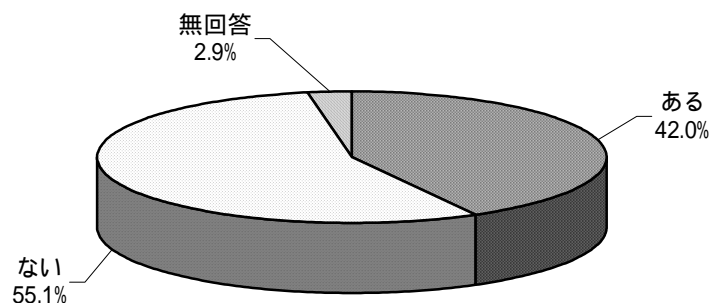
放課後児童クラブ利用状況については、「5日」が約6割（59.4%）と主流となっている。

問8-1. 放課後児童クラブ/週あたり利用日数（%）
全体(n=138)



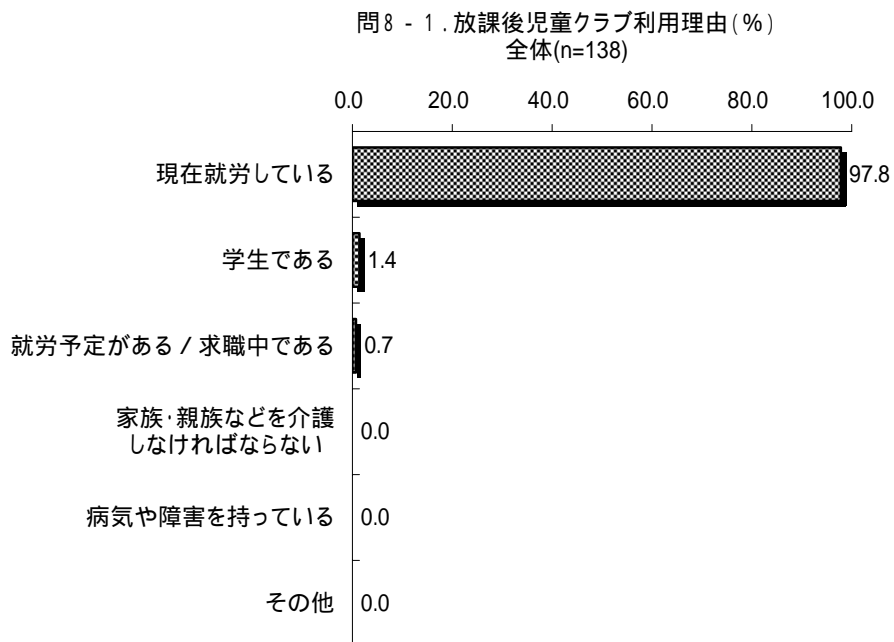
土・日の利用については、「ある」が42.0%、「ない」が55.1%の内訳となっている。

問8-1. うち土・日の利用（%）
全体(n=138)



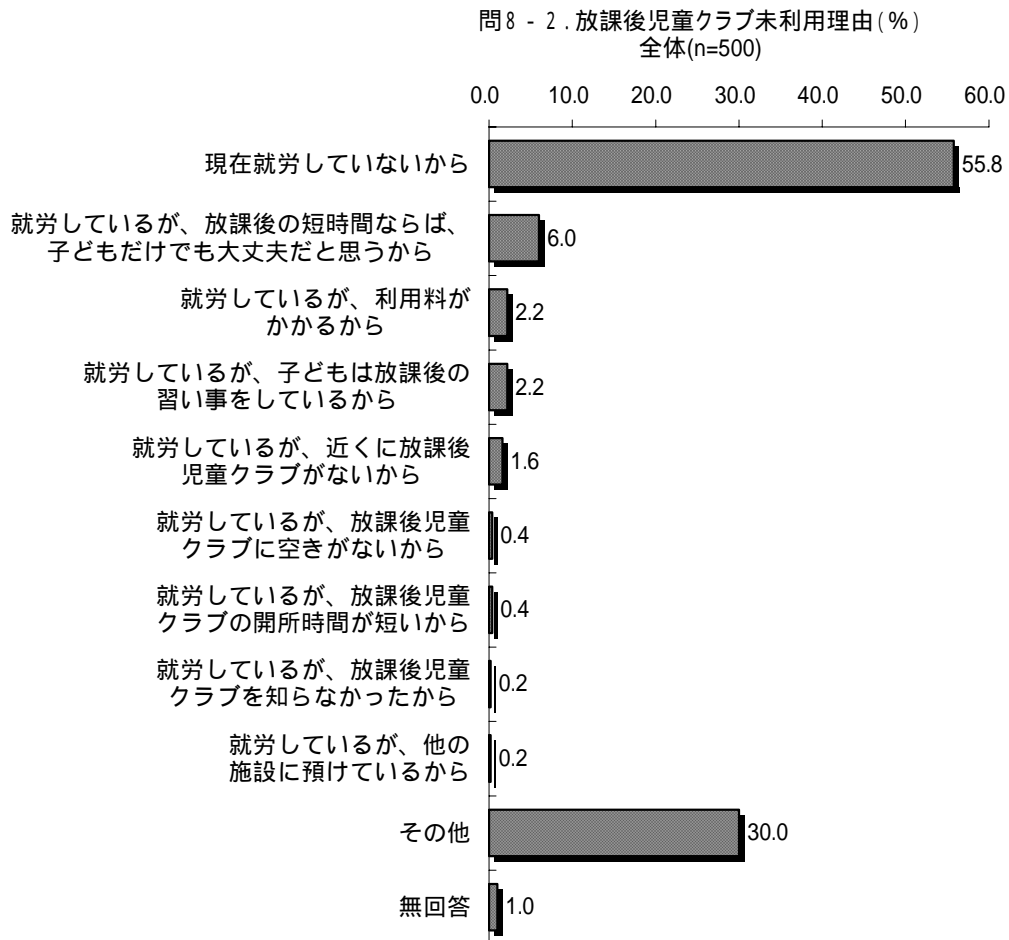
(2) 放課後児童クラブ利用理由

放課後児童クラブ利用理由については、保護者が「現在就労している」が97.8%で大半を占める。



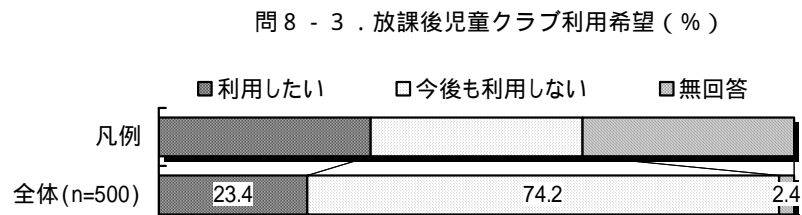
3. 放課後児童クラブ未利用理由（問 8-2）

放課後児童クラブ未利用理由については、「現在就労していないから」が55.8%と主流となっており、この他の理由は少ない。

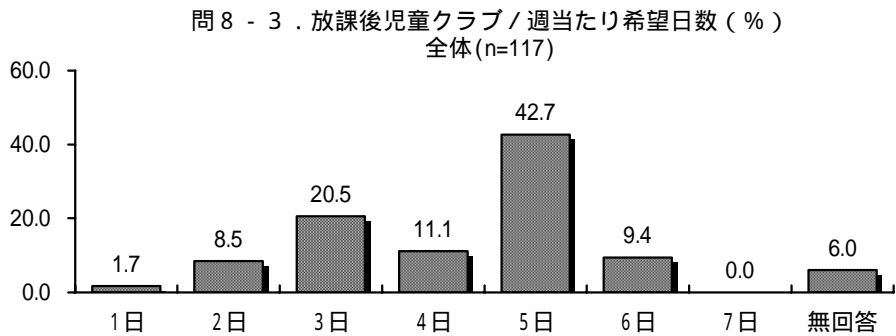


4. 放課後児童クラブ利用希望（問 8-3）

放課後児童クラブの利用希望は、全体で23.4%である。

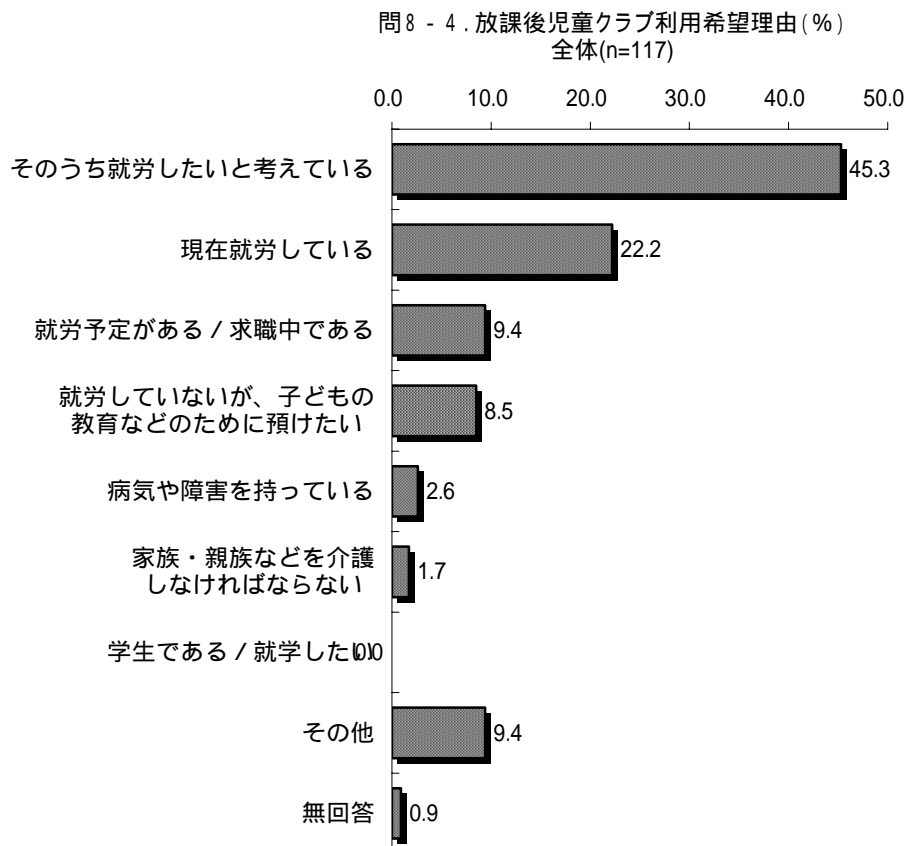


放課後児童クラブの週あたり利用希望日数については、「5日」が42.7%で最も多くなっている。



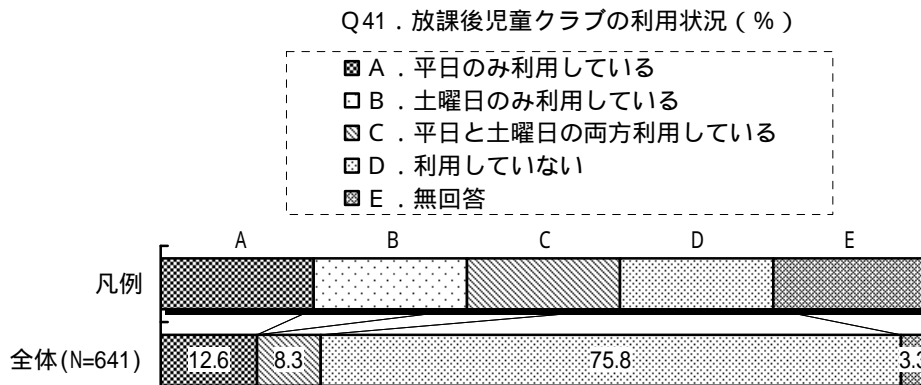
5 . 放課後児童クラブ利用希望理由 (問 8-4)

放課後児童クラブ利用希望理由については、「そのうち就労したいと考えている」が45.3%と主流となっており、以下「現在就労している」(22.2%)、「就労予定がある / 求職中である」(9.4%)の順となっている。



6. 放課後児童クラブの利用有無 (Q41)

放課後児童クラブの利用状況については、「利用していない」が75.8%で主流となっている。

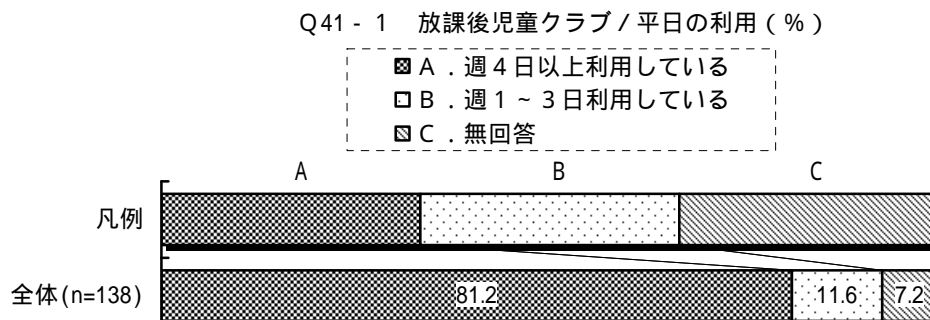


7. 放課後児童クラブ利用状況 (Q41-1)

(1) 放課後児童クラブ/平日の利用

放課後児童クラブの平日の利用については、「週4日以上利用している」が8割(81.2%)を占め主流となっている。

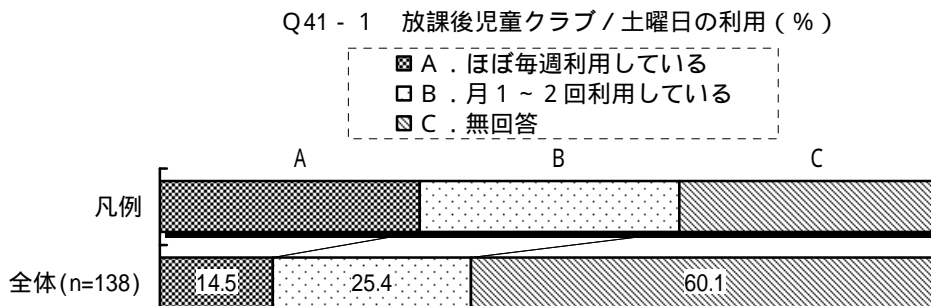
利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「15時~17時台」が主流となっている。



(2) 放課後児童クラブ/土曜日の利用

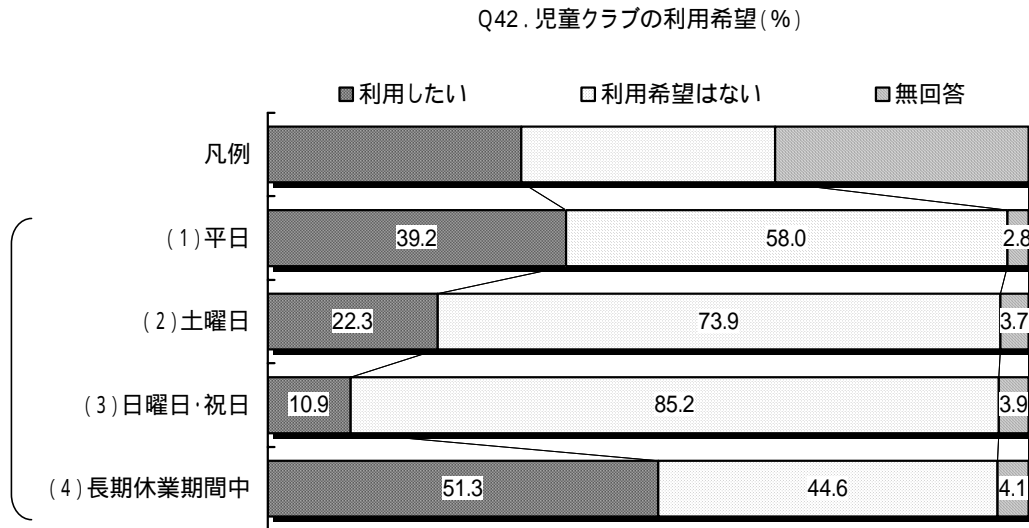
放課後児童クラブの土曜日の利用については、「月1~2回利用している」が25.4%で最も多くなっている。

利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時~17時台」が主流となっている。



8. 放課後児童クラブの利用希望 (Q42)

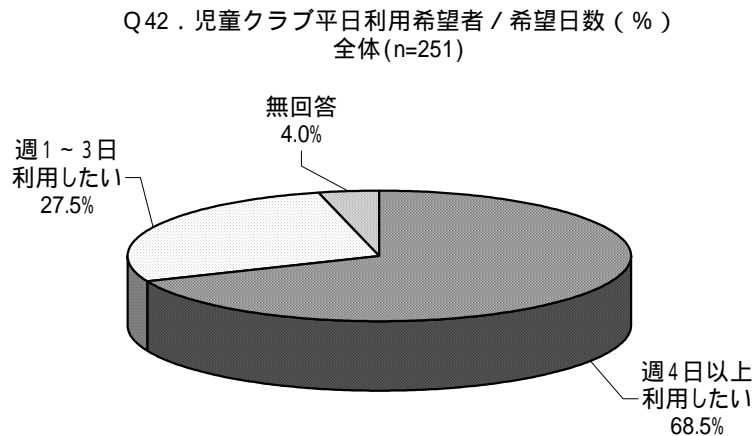
放課後児童クラブの利用希望については、長期休業期間中で「利用したい」が51.3%と多くなっているほか、平日で39.2%、土曜日で22.3%、日曜日・祝日で10.9%に希望がみられる。



9. 利用希望条件

(1) 児童クラブ平日利用希望者 / 希望日数

平日利用希望日数については、「週4日以上利用したい」が68.5%を占め主流となっている。

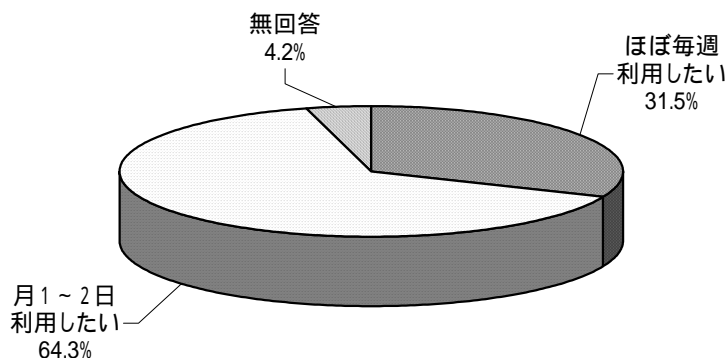


平日の利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「15時～18時台」が主流となっている。

(2) 児童クラブ土曜日利用希望者 / 希望日数

土曜日利用希望日数については、「月1～2日利用したい」が64.3%を占め主流となっている。

Q42. 児童クラブ土曜日利用希望者 / 希望日数 (%)
全体(n=143)

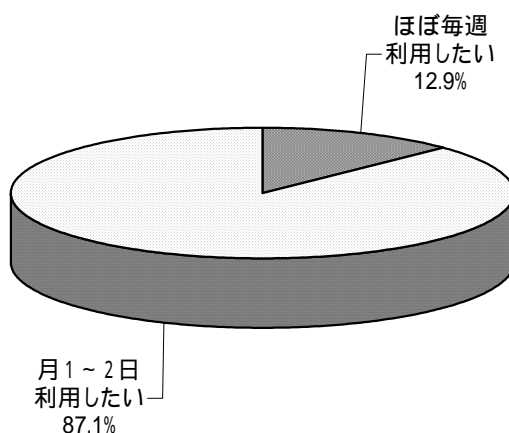


土曜日の利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時～17時台」が主流となっている。

(3) 児童クラブ日曜日・祝日利用希望者 / 希望日数

日曜日・祝日利用希望日数については、「月1～2日利用したい」が87.1%を占め主流となっている。

Q42. 児童クラブ日曜日・祝日利用希望者 / 希望日数 (%)
全体(n=70)

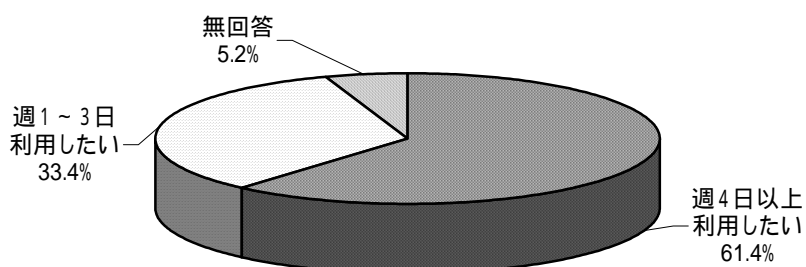


日曜日・祝日の利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時～18時台」が主流となっている。

(4) 児童クラブ長期休業期間中利用希望者 / 希望日数

長期休業期間中利用希望日数については、「週4日以上利用したい」が61.4%を占め主流となっている。

Q42. 児童クラブ長期休業期間中利用希望者 / 希望日数 (%)
全体(n=329)



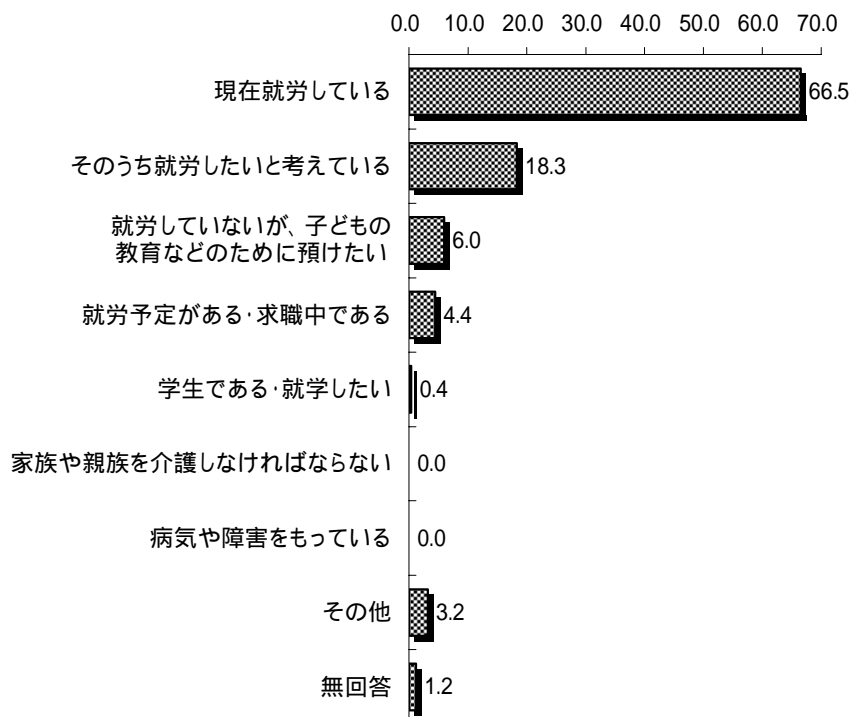
長期休業期間中の利用希望開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時~18時台」が主流となっている。

10. 放課後児童クラブ利用希望理由

(1) 平日の利用希望理由

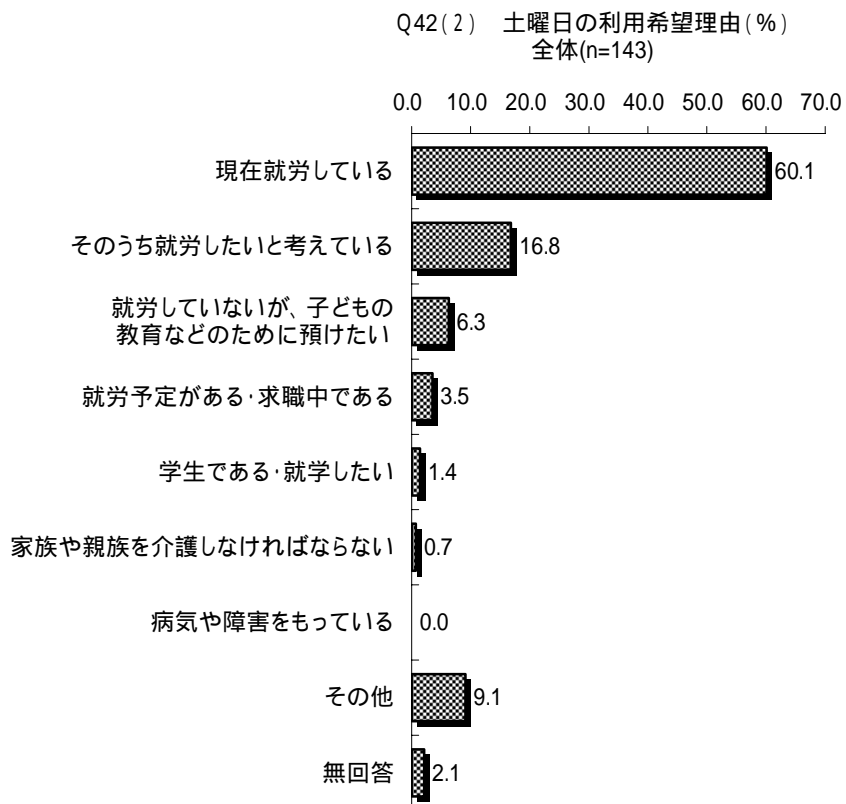
平日の利用希望理由については、「現在就労している」が66.5%で主流となっているほか、「そのうち就労したいと考えている」が18.3%みられる。

Q42(1) 平日の利用希望理由 (%)
全体(n=251)



(2) 土曜日の利用希望理由

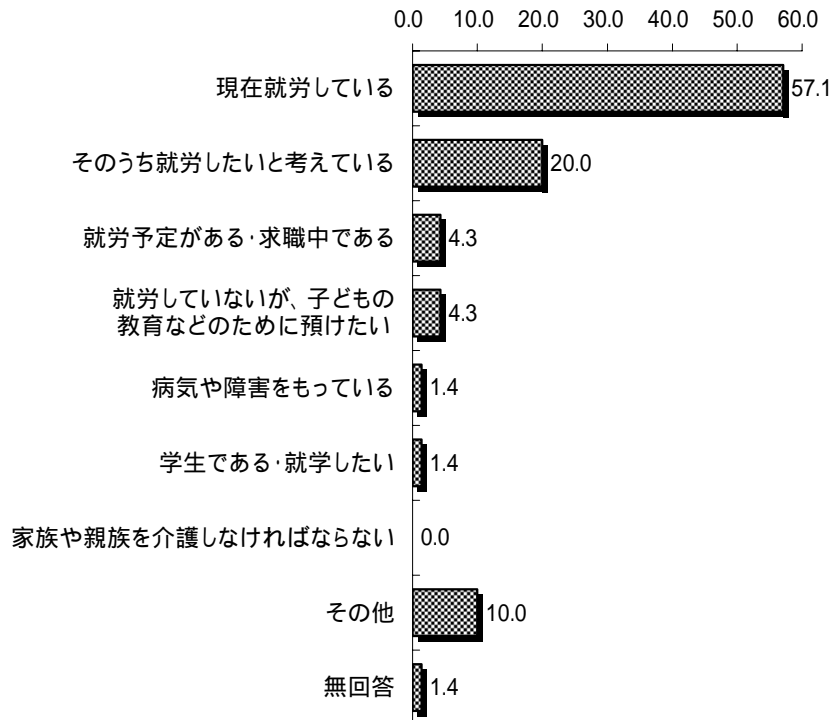
土曜日の利用希望理由については、「現在就労している」が60.1%で主流となっているほか、「そのうち就労したいと考えている」が16.8%みられる。



(3) 日曜日・祝日の利用希望理由

日曜日・祝日の利用希望理由については、「現在就労している」が57.1%で主流となっているほか、「そのうち就労したいと考えている」が20.0%みられる。

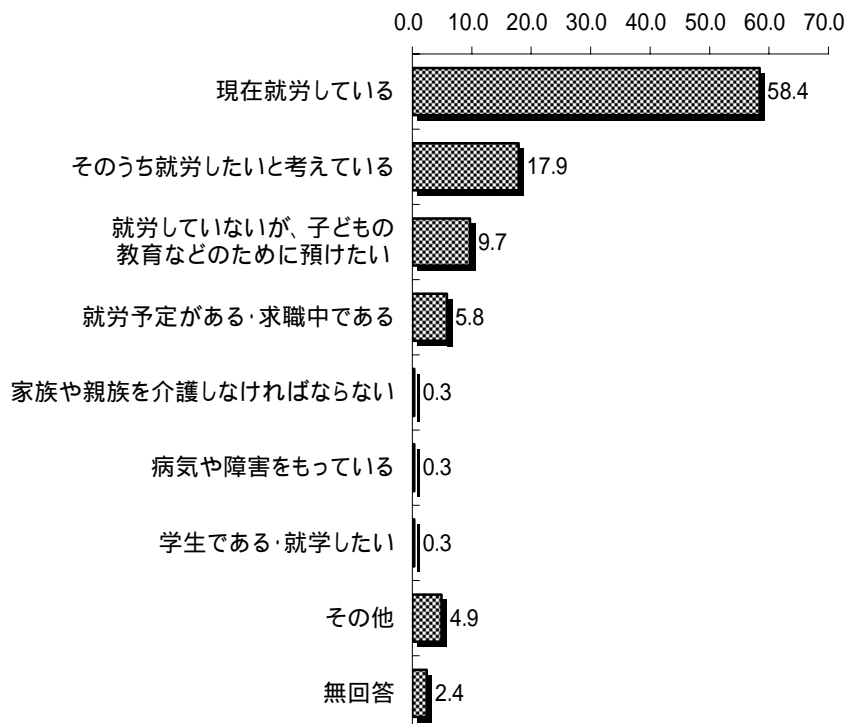
Q42(3) 日曜日・祝日の利用希望理由(%)
全体(n=70)



(4) 長期休業期間中のみの利用希望理由

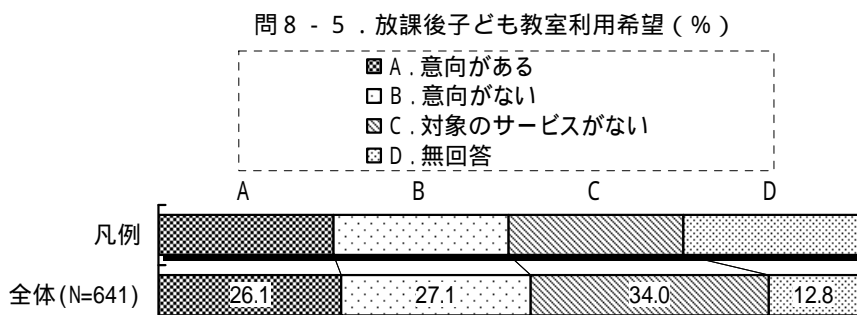
日曜日・祝日の利用希望理由については、「現在就労している」が58.4%で主流となっているほか、「そのうち就労したいと考えている」が17.9%みられる。

Q42(4) 長期休業期間中のみの利用希望理由(%)
全体(n=329)

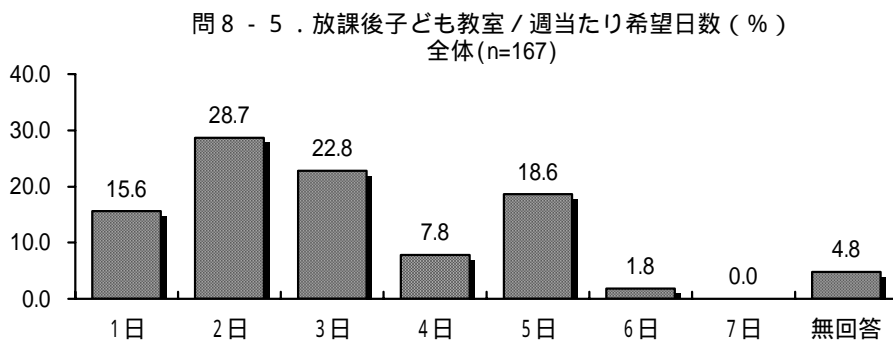


11. 放課後子ども教室利用希望（問 8-5）

放課後子ども教室利用希望については、「対象のサービスがない」が 34.0%で最も多くなっている。「意向がある」は 26.1%となっている。

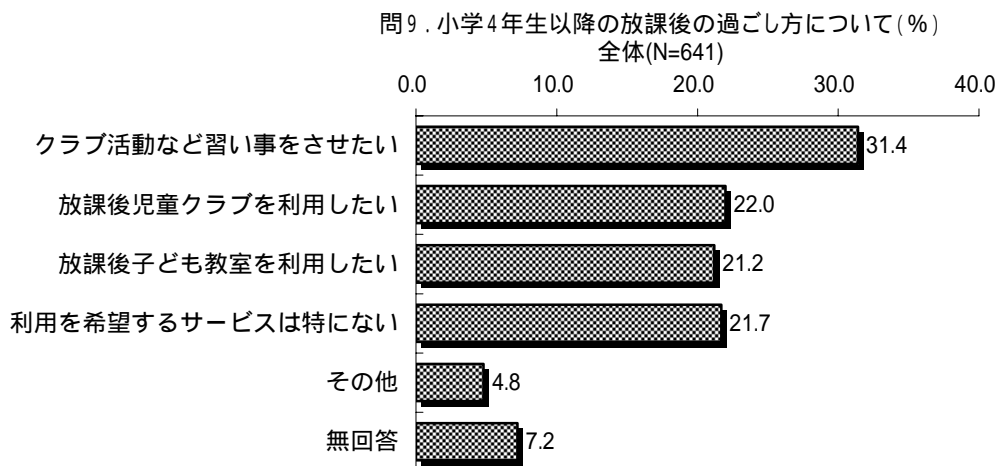


週当たり利用希望日数については、「2日」が 28.7%で最も多く、次いで「3日」が 22.8%、「5日」が 18.6%の順となっている。



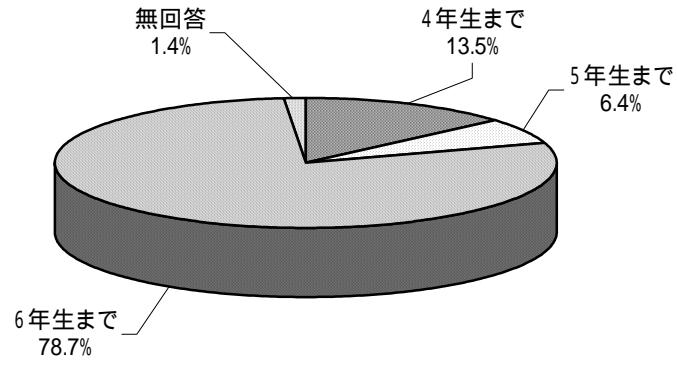
12. 小学4年生以降の放課後の過ごし方について（問 9）

小学4年生以降の放課後の過ごし方については、「クラブ活動など習い事をさせたい」が 31.4%と最も多くなっており、以下「放課後児童クラブを利用したい」(22.0%)、「放課後子ども教室を利用したい」(21.2%)の順となっている。「利用を希望するサービスは特にない」は 21.7%みられる。



放課後児童クラブを利用する場合の希望学年は、「6年生まで」が78.7%を占めて主流となっている。

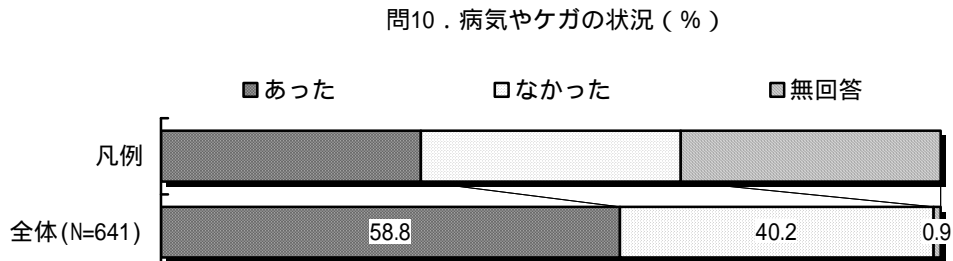
問9 . 放課後児童クラブを利用したい場合 / 希望学年 (%)
全体 (n=141)



【4】病児・病後児保育について

1. 病気やけがの状況（問10）

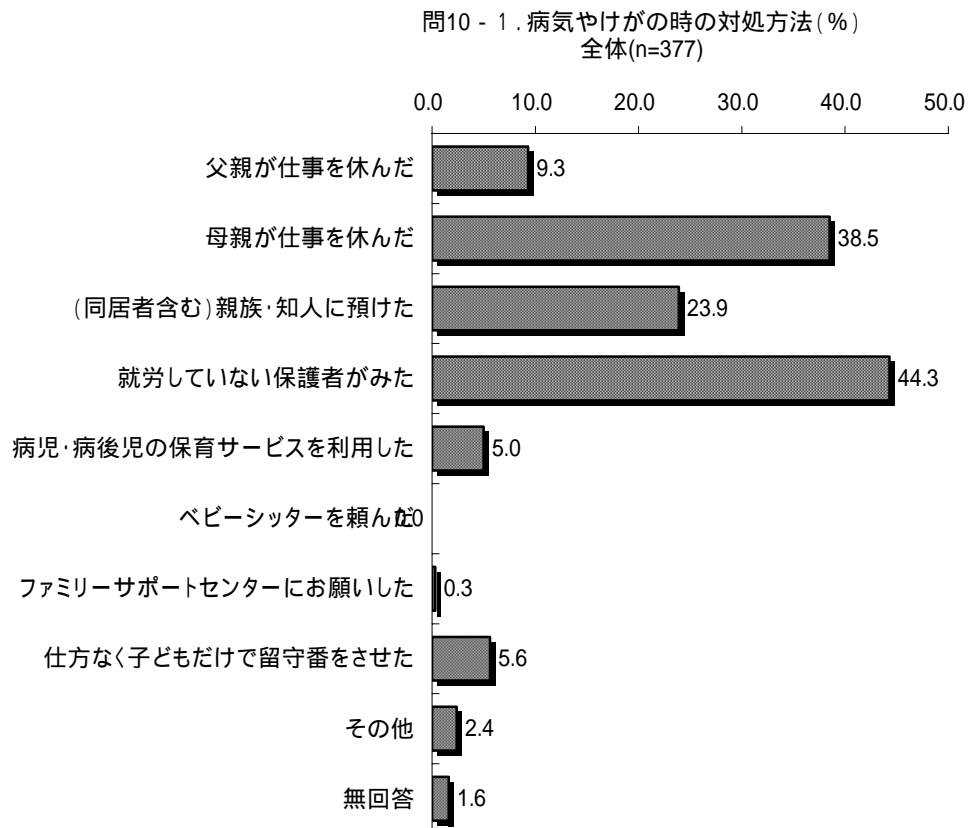
病気やケガで学校を休まなければならなかったことの有無については、「あった」が58.8%、「なかった」が40.2%の内訳となっている。



2. 病気やけがの時の対処状況（問10-1）

（1）対処状況

病気やけがの時の対処状況については、「就労していない保護者がみた」が44.3%で最も多く、次いで「母親が仕事を休んだ」が38.5%、「(同居者含む)親族・知人に預けた」(23.9%)、「父親が仕事を休んだ」(9.3%)の順となっている。



(2) 対処方法別日数

「就労していない保護者がみた」場合は「1～4日」が69.5%で、年間平均3.8日/年、
「母親が休んだ」場合は「1～4日」が71.7%で3.6日/年、「親族・知人に預けた」
場合は「1～4日」が76.7%で3.2日/年となっている。

問10-1. 対処方法別日数(%)

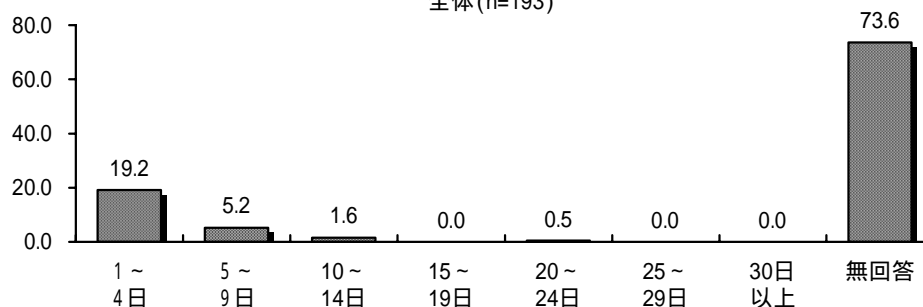
	1～ 4日	5～ 9日	10～ 14日	15～ 19日	20～ 24日	25～ 29日	30日 以上	無回答	平均 (日/年)
父親が休んだ日数(n=35)	85.7	5.7	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	2.9
母親が休んだ日数(n=145)	71.7	17.2	6.9	0.0	2.1	0.0	0.0	2.1	3.6
親族・知人に預けた日数(n=90)	76.7	13.3	5.6	0.0	0.0	0.0	1.1	3.3	3.2
就労していない保護者がみた日数(n=167)	69.5	21.0	5.4	0.0	1.2	0.6	0.0	2.4	3.8
病児・病後児の保育サービス 利用した日数(n=19)	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
ベビーシッターを頼んだ日数(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
ファミリーサポートセンターに お願いした日数(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
子どもだけで留守番させた日数(n=21)	81.0	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7
その他の日数(n=9)	44.4	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	4.0

(注) 基数(n)が少ない項目については、参考値として参照してください。

(3) 施設等に預けたいと思った日数(問10-2)

施設に預けたいと思った日数については、「1～4日」が19.2%、「5～9日」が5.2%み
られるが、それ以上の日数についてはそれぞれ少ない。(この場合の「無回答」には、設問
内容からみて「預けたいと思わなかった」という意識が多数含まれていると推察される。)

問10-2. 施設等に預けたいと思った日数(%)
全体(n=193)

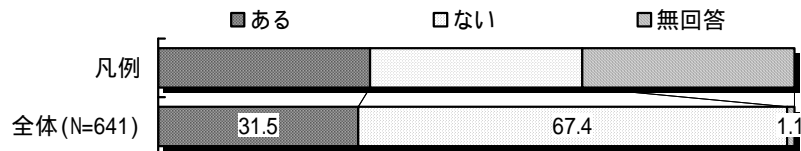


【5】一時預かりについて

1. 一時預かりの有無（問11）

一時預かりについては、「ある」が31.5%、「ない」が67.4%の内訳となっている。

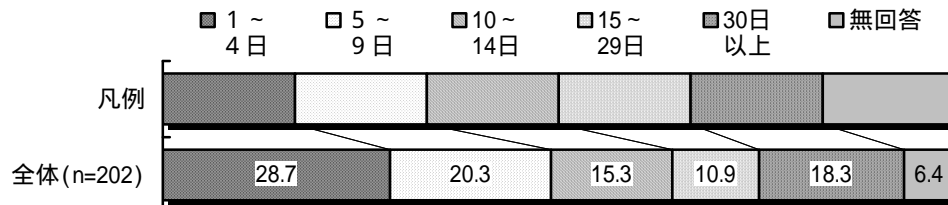
問11. 一時預かりの有無（%）



2. 一時預けた日数

一時預かり経験者における（年間）日数については、「1～4日」が28.7%と最も多く、次いで「5～9日」（20.3%）、「30日以上」（18.3%）の順となっている。

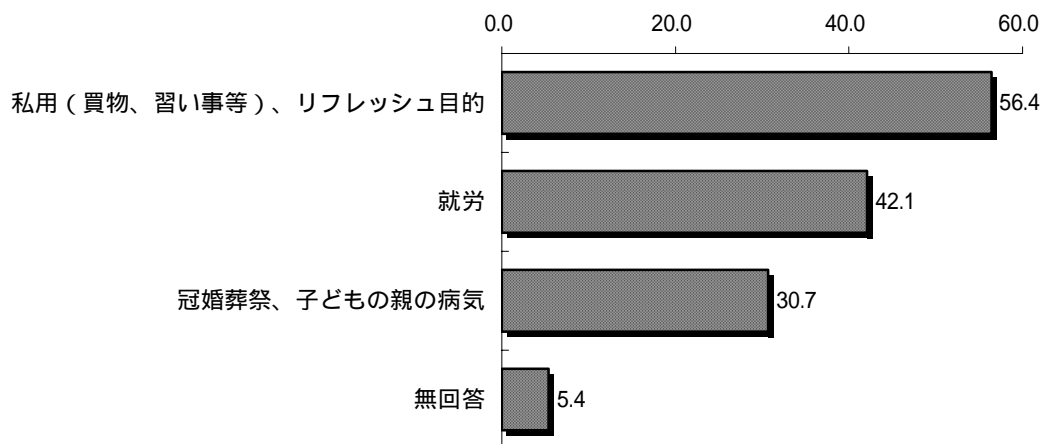
問11. 一時預けた日数（%）



3. 一時預かりの理由

一時預かり経験者におけるその理由については、「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的」が56.4%と最も多く、以下、「就労」（42.1%）、「冠婚葬祭、子どもの親の病気」（30.7%）などが続く。

問11. 一時預かりの理由（%）
全体(n=202)



理由別日数をみると「私用（買物、習い事等）リフレッシュ目的」の場合は「1～4日」が47.4%で平均9.6日/年、「冠婚葬祭、子どもの親の病気」の場合は「1～4日」が71.0%で平均6.0日/年、「就労」の場合は「1～4日」が31.8%で平均21.1日/年などとなっている。

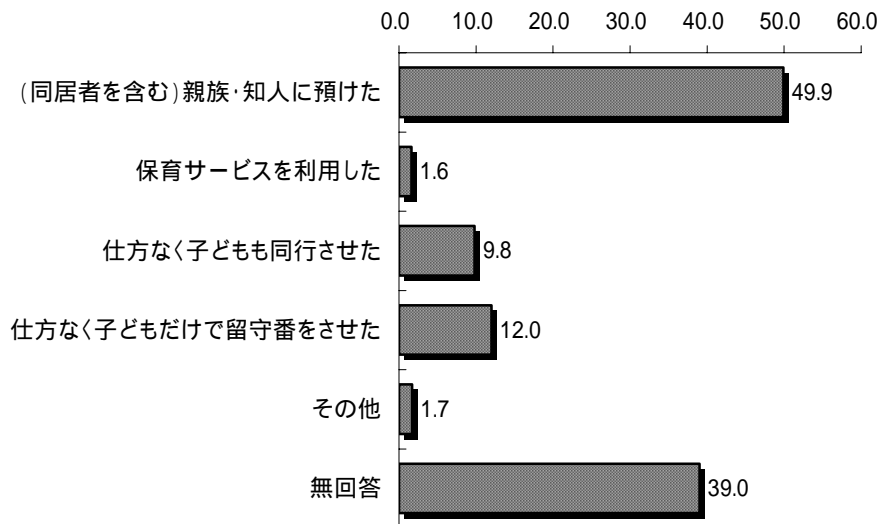
問11. 一時預かり理由別日数 (%)

	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20～24日	25～29日	30日以上	無回答	平均日/年
私用、リフレッシュ目的の場合(n=114)	47.4	24.6	8.8	2.6	4.4	0.9	10.5	0.9	9.6
冠婚葬祭、子どもの親の病気の場合(n=62)	71.0	14.5	4.8	1.6	1.6	0.0	4.8	1.6	6.0
就労の場合(n=85)	31.8	14.1	15.3	4.7	9.4	1.2	21.2	2.4	21.1

4. 一時預かりの対処方法 (Q44)

一時預かりの対処方法については、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が49.9%と最も多く、次いで「仕方なく子どもだけで留守番させた」が12.0%の順となっている。

Q44. 一時預かりの対処方法 (%)
全体(N=641)



対処法別では「親族・知人に預けた」場合は「1～4日」が48.1%で平均8.3日/年、「子どもを同行させた」場合は「1～4日」が66.7%で平均2.9日/年、「子どもだけで留守番させた」場合は「1～4日」が63.6%で平均6.1日/年となっている。

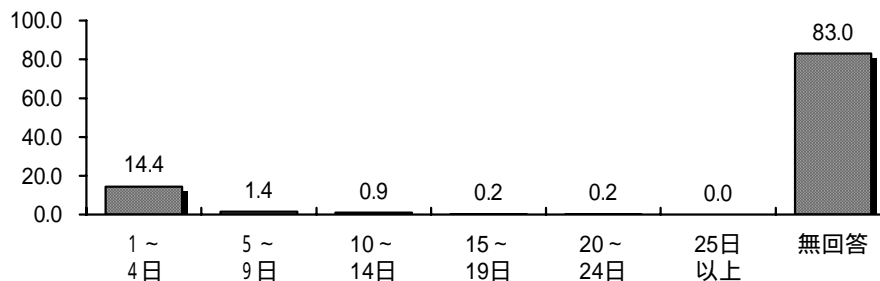
Q44. 一時預かり対処方法別日数 (%)

	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20～24日	25～29日	30日以上	無回答	平均日/年
親族・知人に預けた日数(n=320)	48.1	16.9	15.0	1.6	4.4	0.3	5.3	8.4	8.3
保育サービスを利用した日数(n=10)	80.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	2.7
子どもを同行させた日数(n=63)	66.7	15.9	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	14.3	2.9
子どもだけで留守番させた日数(n=77)	63.6	11.7	11.7	0.0	5.2	0.0	2.6	5.2	6.1
その他の日数(n=11)	63.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	2.8

5. 一時預かり / 月当たり利用希望日数 (Q44-1)

一時預かりする場合の月当たり利用希望日数については、「1～4日」が14.4%となっているが、これ以上の日数は少ない。

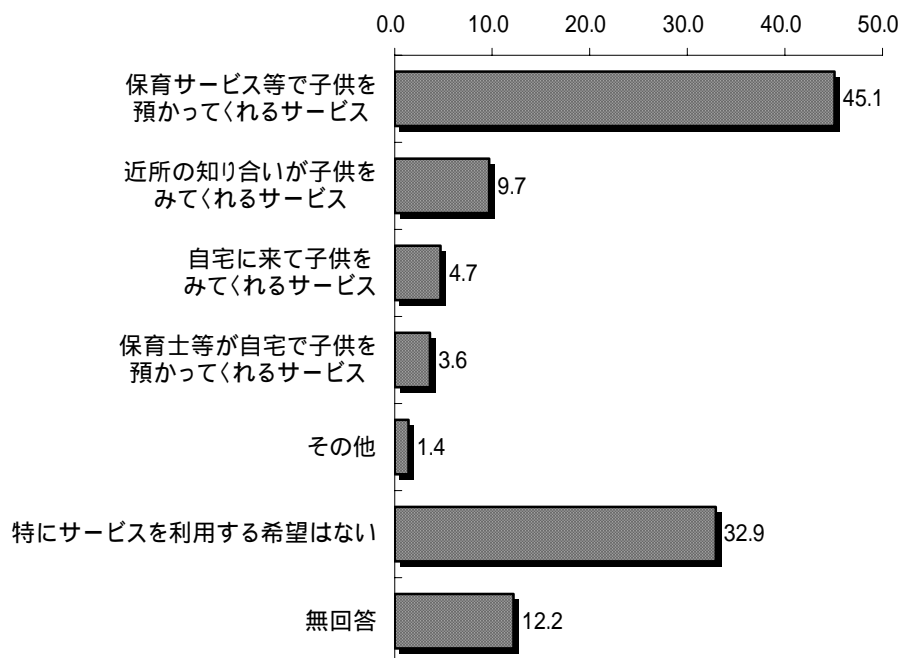
Q44 - 1 . 一時預かり / 月当たり利用希望日数 (%)
全体(N=641)



6. 希望する一時預かりサービス (Q44-2)

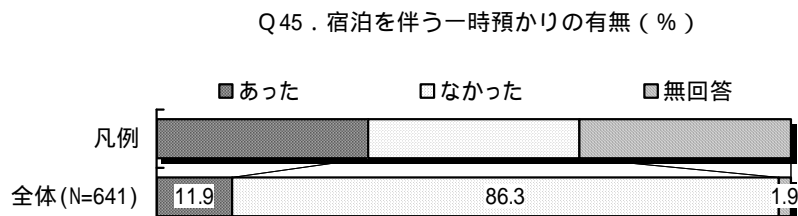
希望する一時預かりサービスについては、「特にサービスを利用する希望はない」が3割程度であることから、「無回答」を除き6割程度に希望があるとみられる。希望内容は「保育サービス等で子どもを預かってくれるサービス」が45.1%と最も多く、次いで「近所の知り合いが子どもをみてくれるサービス」が9.7%となっているが、この他の希望は少ない。

Q44 - 2 . 希望する一時預かりサービス (%)
全体(N=641)



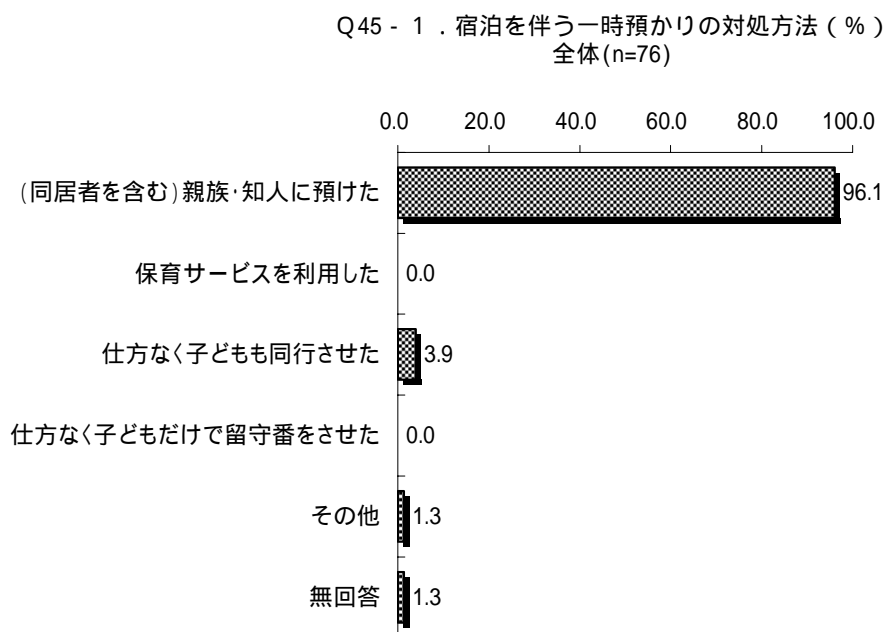
7. 宿泊を伴う一時預かりの有無 (Q45)

宿泊を伴う一時預かりの有無については、「あった」が 11.9%、「なかった」が 86.3%の内訳である。



8. 宿泊を伴う一時預かりの対処方法 (Q45-1)

宿泊を伴う一時預かり時の対処方法については、「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が 96.1%と、これにほぼ特化している。



対処法別では「親族・知人に預けた」場合は「1～4日」が 67.1%で平均 5.8 日/年となっている。

Q45-1. 宿泊を伴う一時預かり / 対処方法別日数 (%)

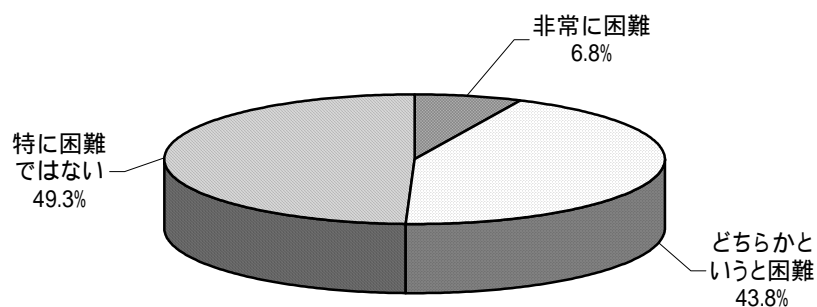
	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20～24日	25～29日	30日以上	無回答	平均泊/年
親族・知人に預けた泊数(n=73)	67.1	16.4	2.7	0.0	0.0	0.0	6.8	6.8	5.8
保育サービスを利用した泊数(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
子どもを同行させた泊数(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	13.5
子どもだけで留守番させた泊数(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
その他の泊数(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0

(注) 基数(n=)が少ない項目については、参考値として参照してください。

9. 親族・知人に預けた際の困難度 (Q45-2)

「親族・知人に預けた」場合の困難度については、「特に困難ではない」が 49.3%を占めるが、「非常に困難」の 6.8%、「どちらかという困難」の 43.8%の合計 50.6%が困難さを意識している。

Q45 - 2 . (同居者を含む) 親族・知人に預けた場合の困難度 (%)
全体 (n=73)

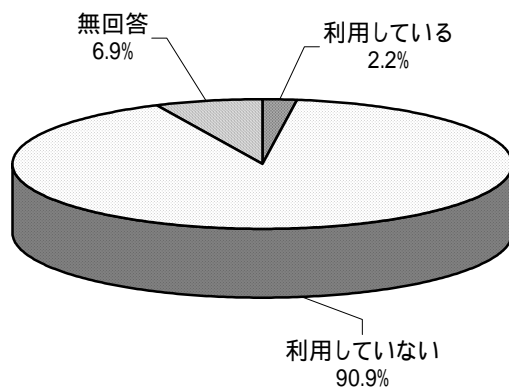


【6】ファミリーサポートセンターについて

1. ファミリーサポートセンターの利用有無 (Q47)

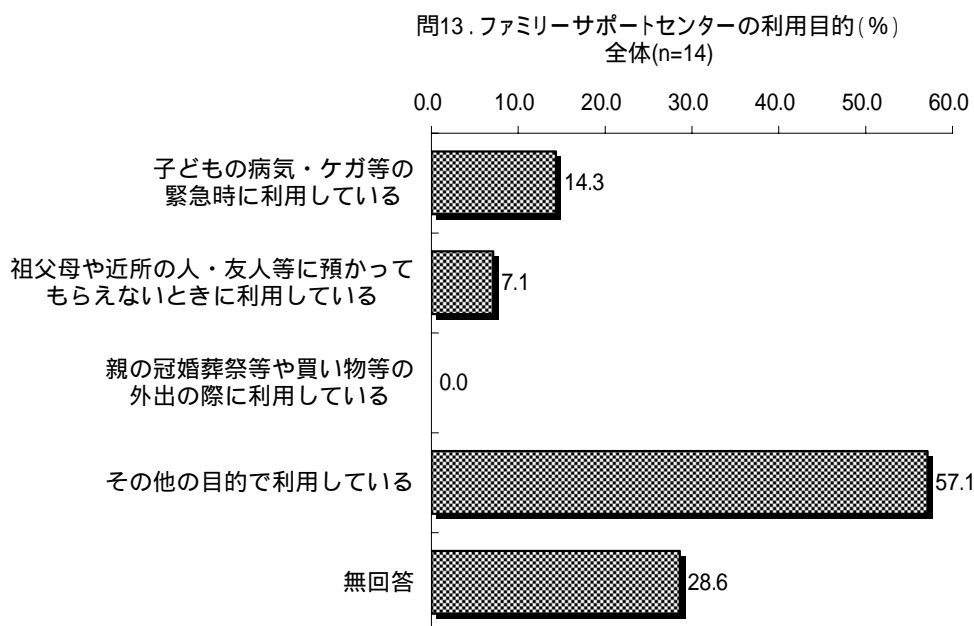
ファミリーサポートセンターの利用有無については、「利用している」が 2.2%、「利用していない」が 90.9%の内訳である。

Q47 . ファミリーサポートセンターの利用有無 (%)
全体 (N=641)



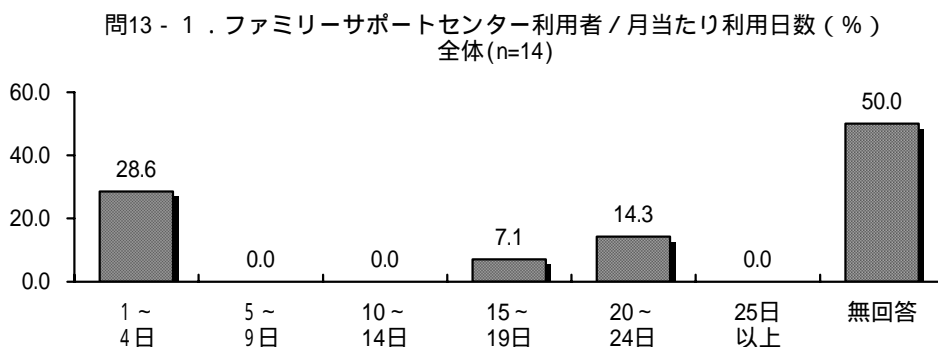
2. ファミリーサポートセンターの利用目的（問 13）

ファミリーサポートセンター利用者の利用目的としては、「子供の病気・ケガ等の緊急時に利用している」が14.3%となっている。

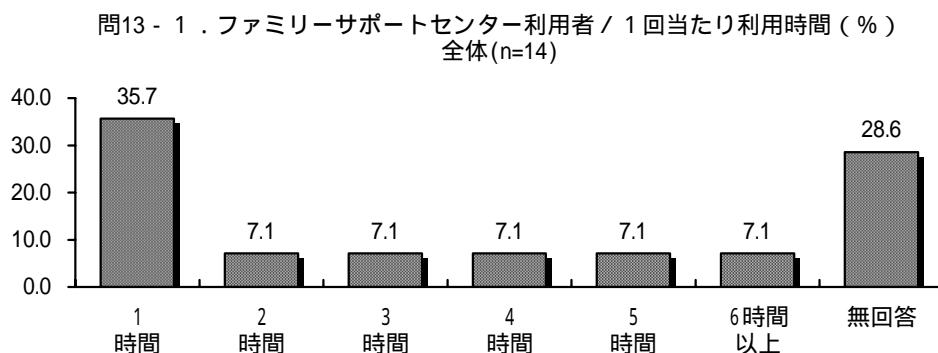


3. ファミリーサポートセンター利用状況（問 13-1）

ファミリーサポートセンター利用者における、利用頻度は、「1～4日」が28.6%と主流となっている。

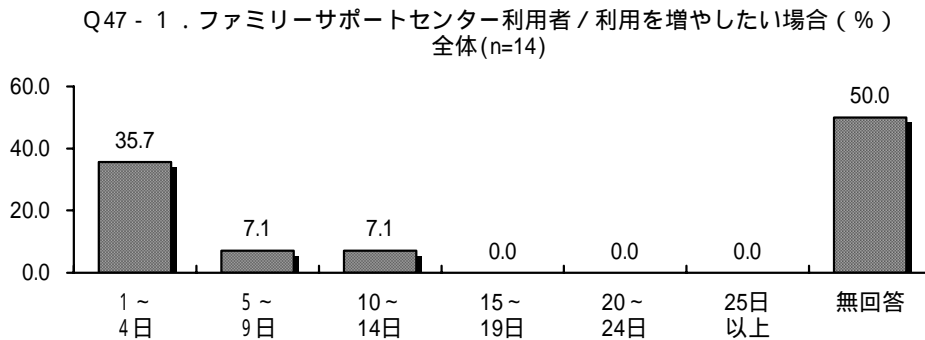


1回当たりの利用時間は「1時間」が35.7%と主流となっている。

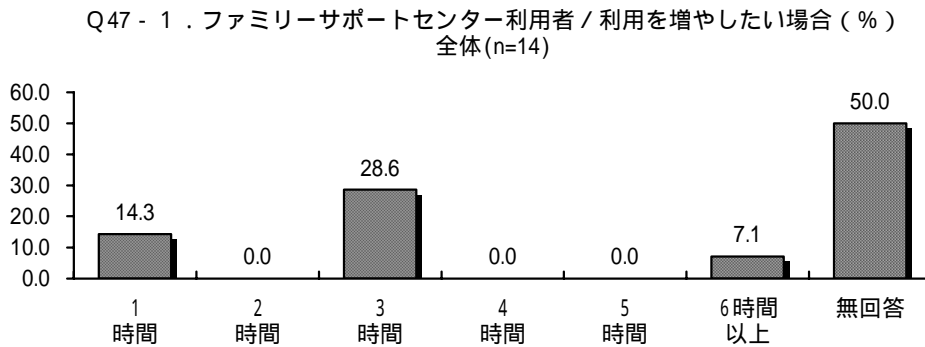


4. ファミリーサポートセンター利用者/月当たり利用日数 (Q47-1)

ファミリーサポートセンター利用者における、利用を増やしたい場合の希望日数は「1～4日」が35.7%で主流となっている。

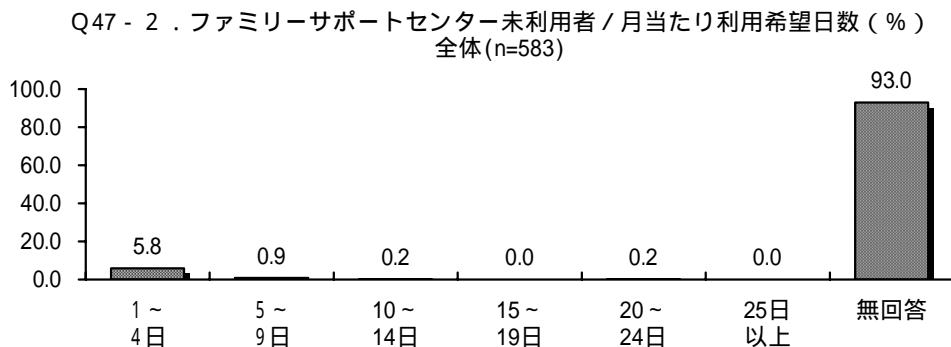


1回当たりの利用希望時間は「3時間」が28.6%で主流となっている。



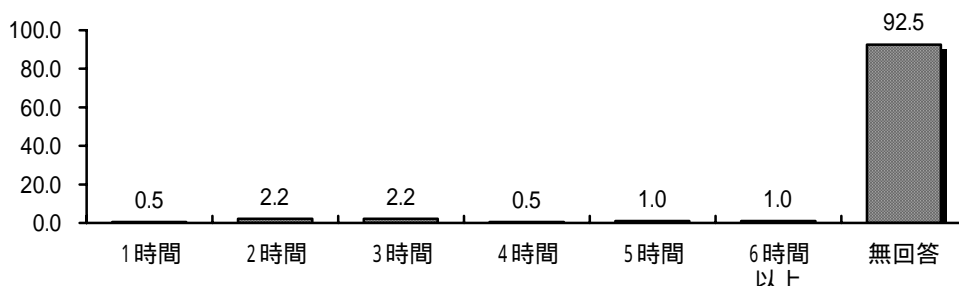
5. ファミリーサポートセンター未利用者/利用希望程度 (Q47-2)

ファミリーサポートセンター未利用者における、利用希望日数は、「1～4日」が5.8%となっている。(この場合の「無回答」には、設問内容からみて「利用しない」という意識が多数含まれていると推察される。)



1 回当たりの利用希望時間は 2～3 時間が相対的に多い。(この場合の「無回答」には、設問内容からみて「利用しない」という意識が多数含まれていると推察される。)

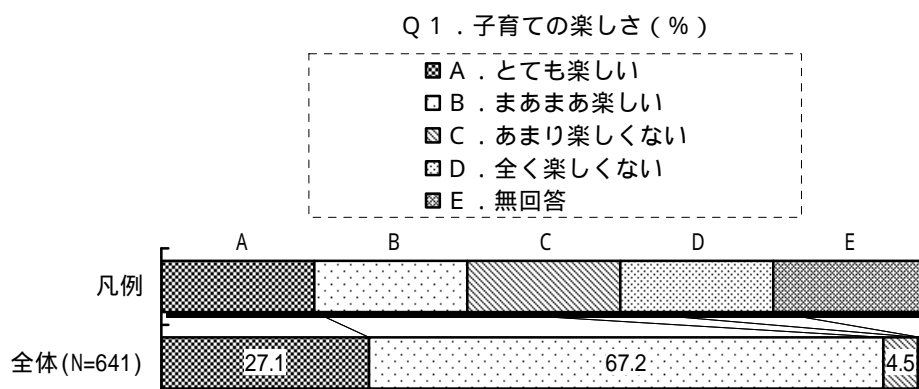
Q47 - 2 . ファミリーサポートセンター未利用者 / 1 回当たり利用希望時間 (%)
全体(n=583)



【7】子育て全般について

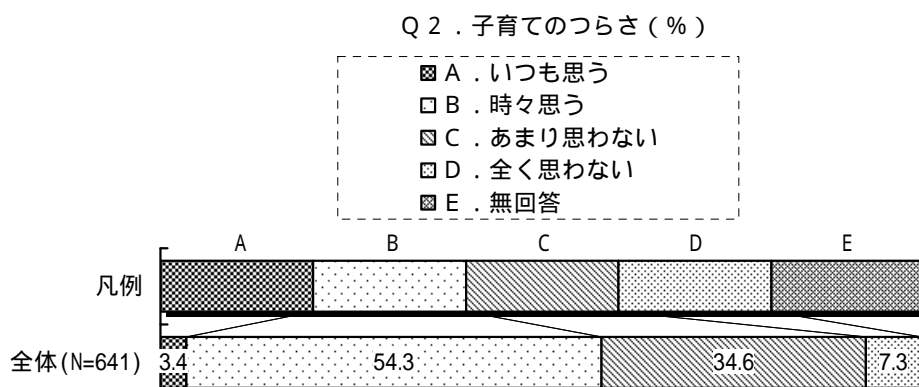
1 . 子育ての楽しさ (Q1)

子育ての楽しさについては、「まあまあ楽しい」が 67.2%と最も多く、「とても楽しい」が 27.1%となっており、9 割以上 (94.3%) の人は楽しいと感じている。



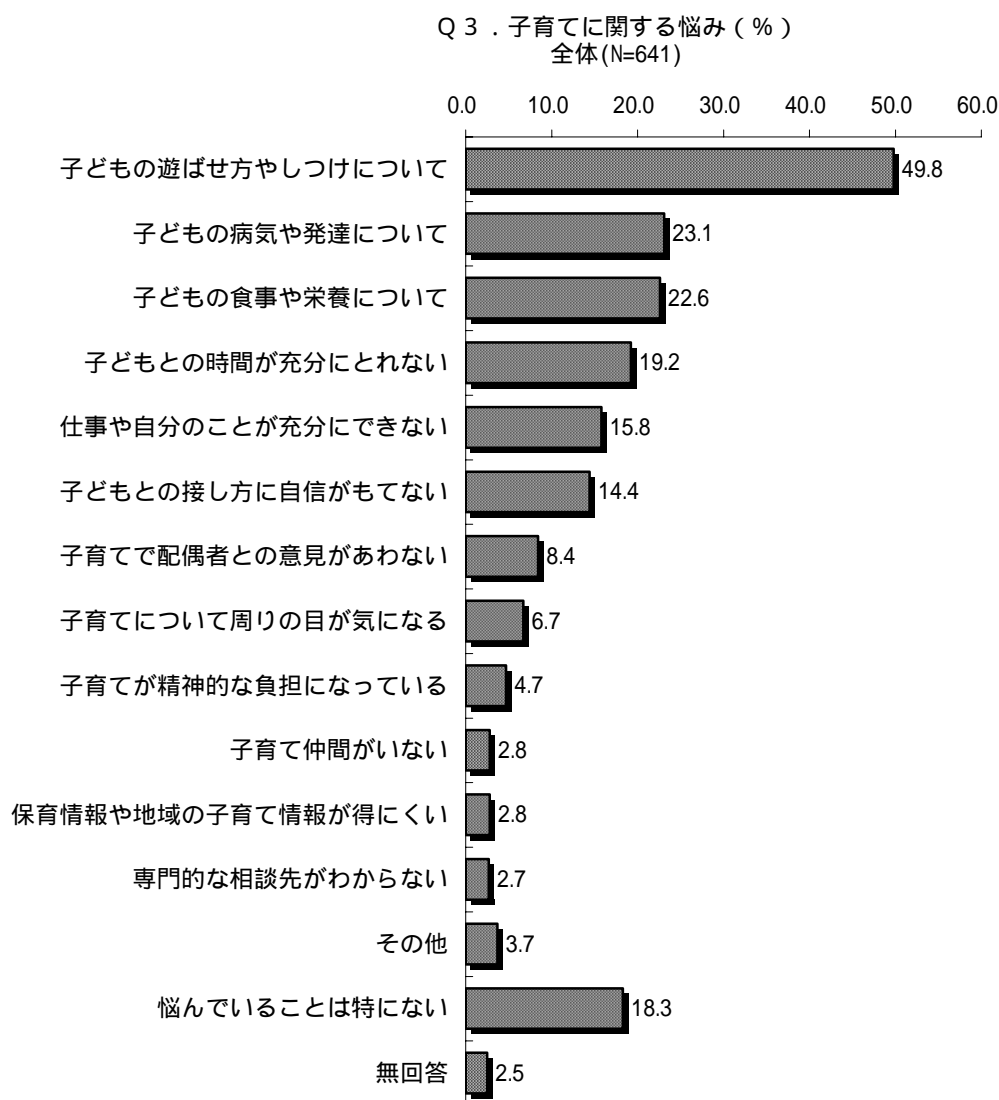
2 . 子育てのつらさ (Q2)

子育てのつらさについては、「いつも思う」が 3.4%、「時々思う」が 54.3%となっているのに対し、「あまり思わない」が 34.6%、「全く思わない」が 7.3%と、つらく感じる人がやや多くなっている。



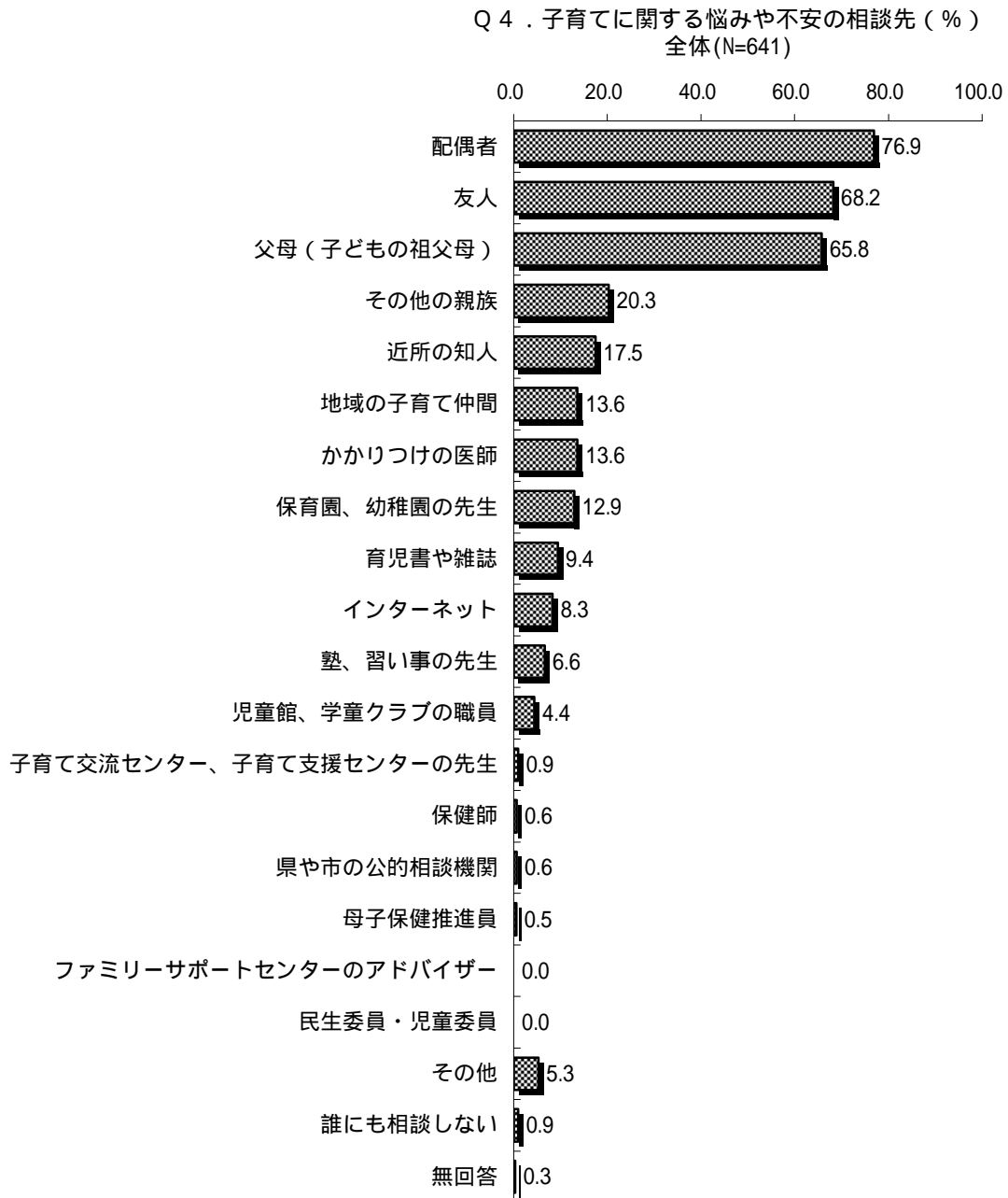
3. 子育てに関する悩み (Q3)

子育てに関する悩みについては、「悩んでいることは特にない」が 18.3%であることから、多くの保護者に何らかの悩みや気になることがあるとみられる。悩んでいること・気になることは「子どもの遊ばせ方やしつけについて」が 49.8%と最も多く、次いで「子どもの病気や発達について」(23.1%)、「子どもの食事や栄養について」(22.6%)などの順となっている。



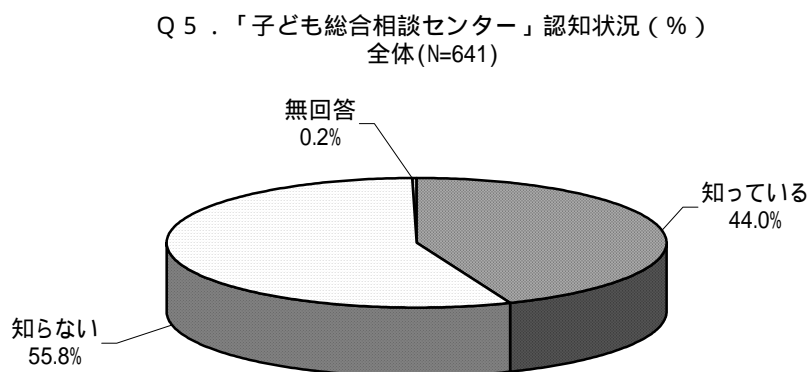
4. 子育てに関する悩みや不安の相談先（Q4）

子育てに関する悩みや不安の相談先については、「配偶者」が76.9%と最も多く、次いで「友人」が68.2%、「父母（子どもの祖父母）」が65.8%となっており、この三者が主な相談先となっている。



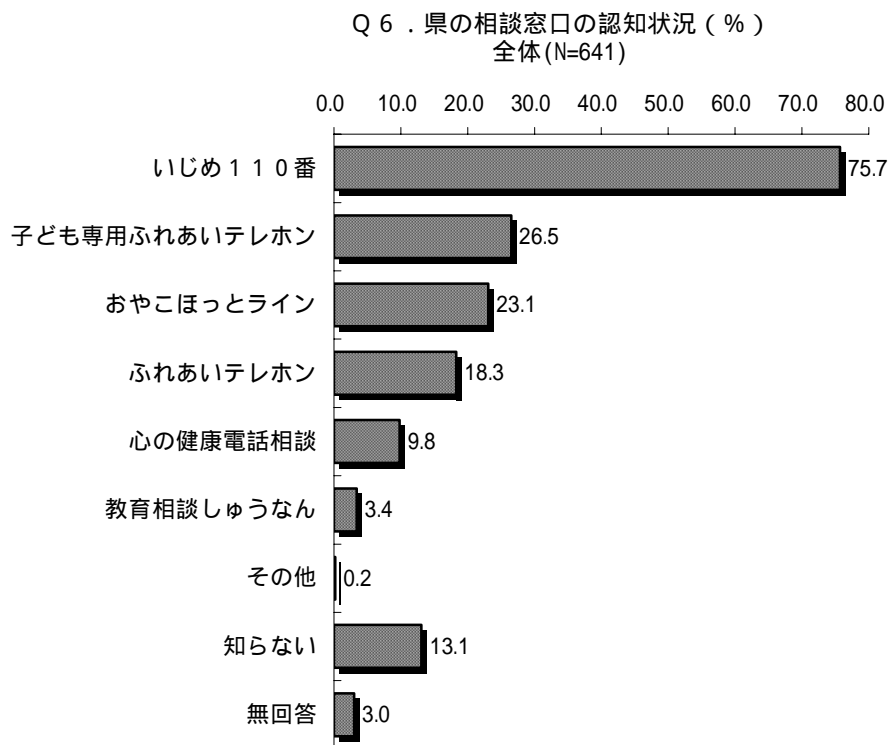
5. 「子ども総合相談センター」認知状況 (Q5)

「子ども総合相談センター」認知状況は、4割あまり(44.0%)であった。



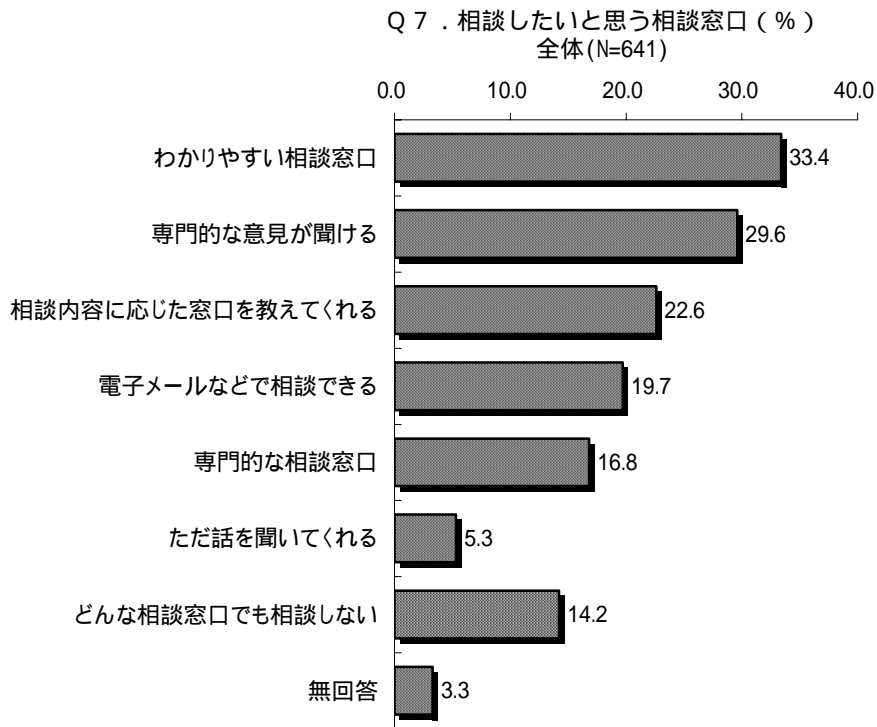
6. 県の相談窓口の認知状況 (Q6)

県の相談窓口の認知状況については、「いじめ110番」が75.7%で最も多く、次いで「子ども専用ふれあいテレホン」(26.5%)、「おやこほっとライン」(23.1%)と続く。



7. 利用したいと思う相談窓口 (Q7)

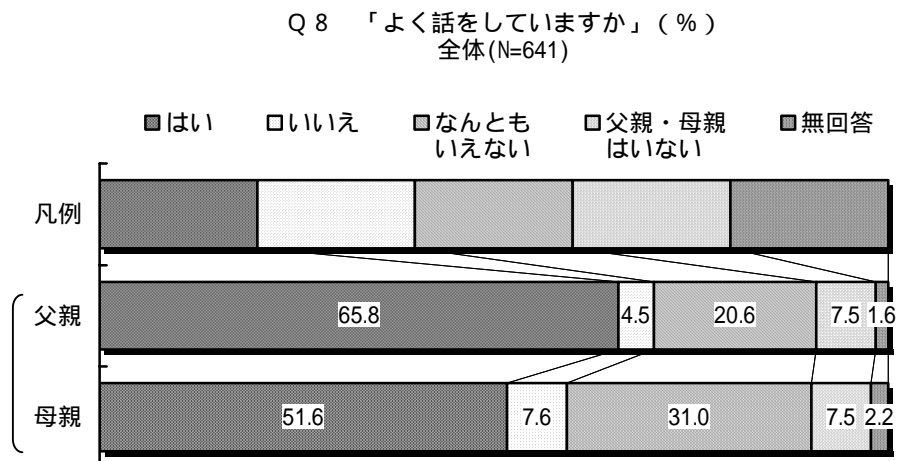
利用したいと思う相談窓口は、「わかりやすい相談窓口」が33.4%で最も多く、以下「専門的な意見が聞ける」(29.6%)、「相談内容に応じた窓口を教えてくれる」(22.6%)、「電子メールなどで相談できる」(19.7%)などとなり、相談窓口の希望は多様化している。



8. 親子の接し方の状況 (Q8)

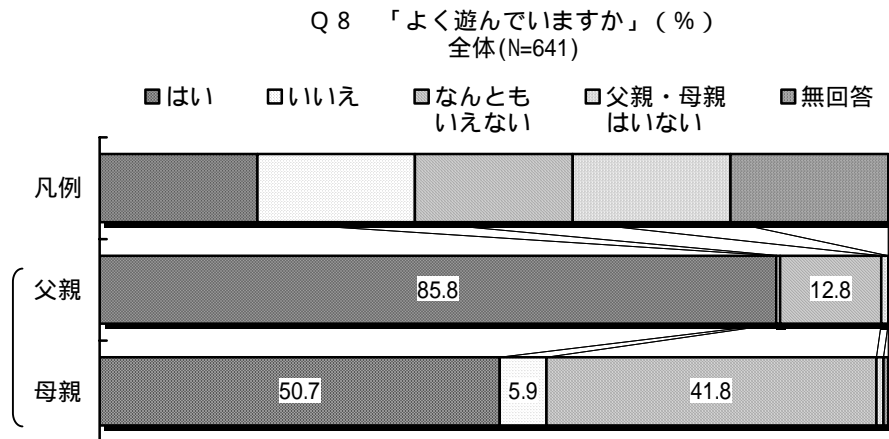
(1) よく話をしていますか

子どもとよく話しているかについては、「はい」が父親は65.8%、母親が51.6%と、父親でやや多くなっている。



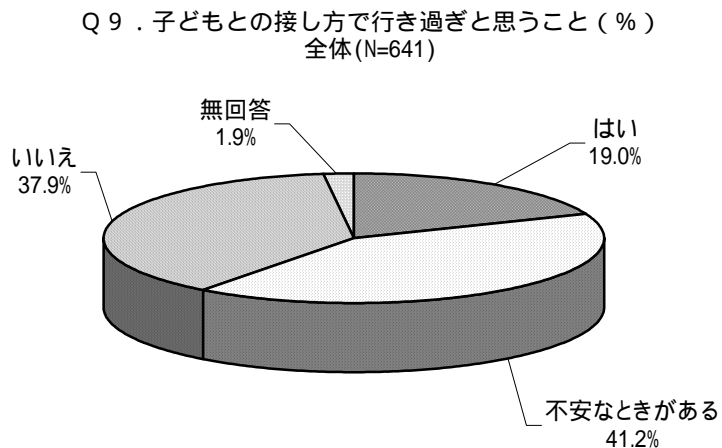
(2) よく遊んでいますか

子どもとよく遊んでいるかについては、「はい」が父親は85.8%、母親が50.7%と、父親と母親の差が大きくなっている。



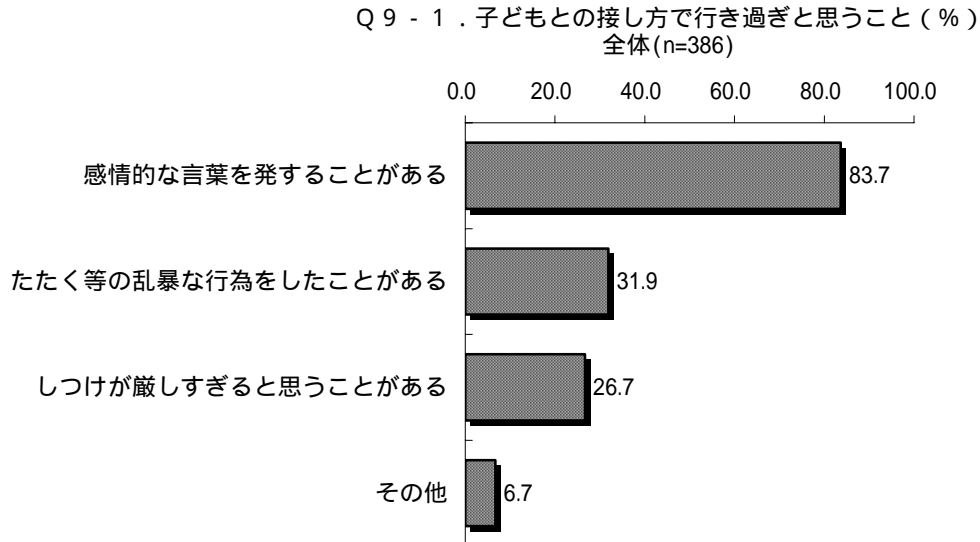
9. 子どもとの接し方で行き過ぎと思うこと (Q9)

子どもとの接し方で行き過ぎと思うことは「不安なときがある」が41.2%で最も多く、「はい」の19.0%の合計6割(60.2%)が行き過ぎを意識している。「いいえ」は37.9%となっている。



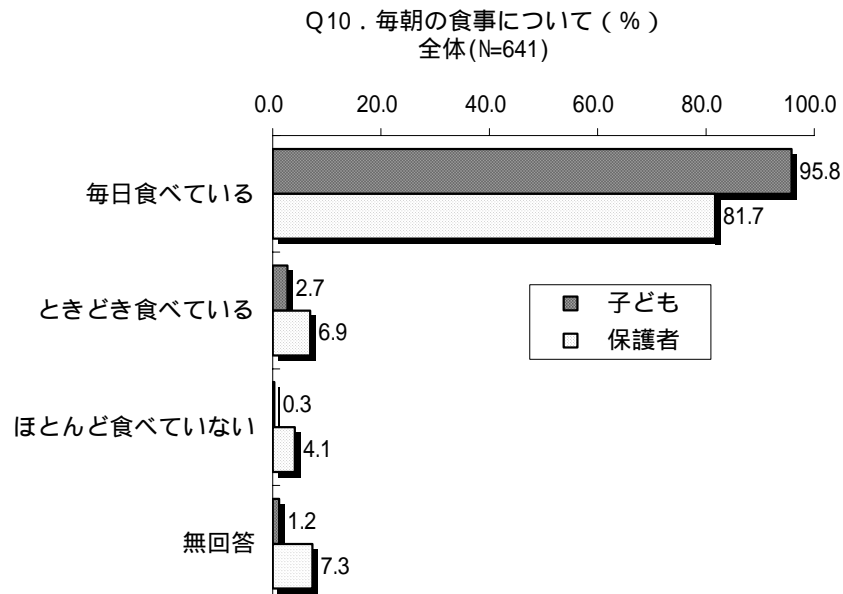
10. 子どもとの接し方で行き過ぎと思うこと (Q9-1)

子どもとの接し方で行き過ぎと思うことは「感情的な言葉を発することがある」が 83.7%で最も多いが、「たたく等の乱暴な行為をしたことがある」も 31.9%みられる。



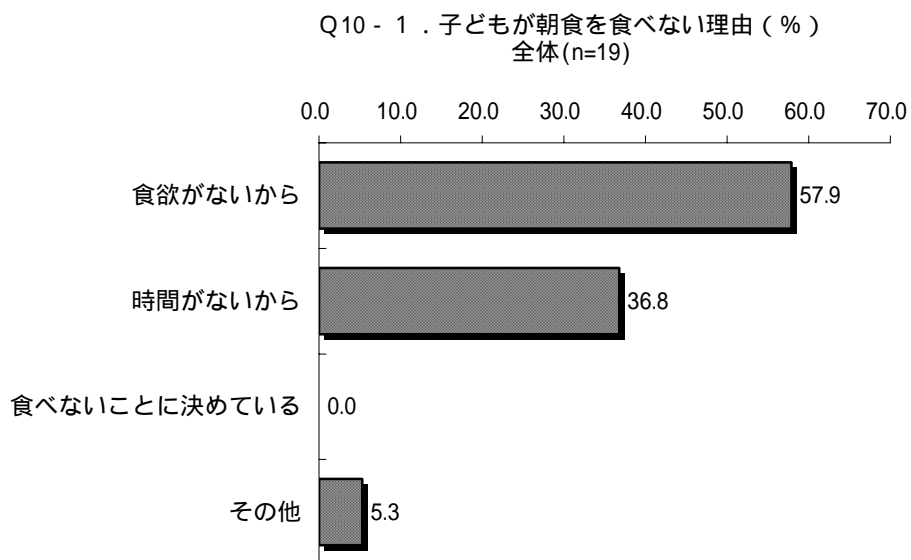
11. 毎朝の食事について (Q10)

毎朝の食事は「毎日食べている」が子ども全体で 95.8%を占める。保護者は 81.7%が「毎日食べている」としている。



12. 子どもが朝食を食べない理由 (Q10-1)

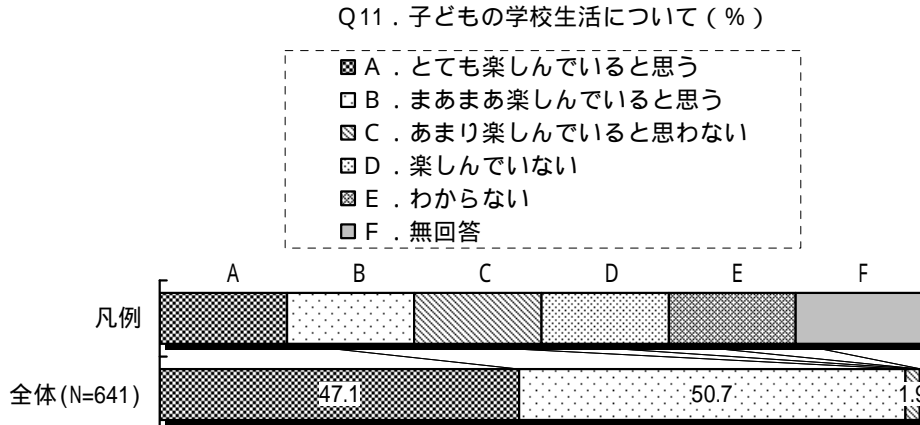
子どもが朝食を食べない理由は「食欲がないから」が 57.9%、「時間がないから」が 36.8% となっている。



【 8 】 子どもの健全育成について

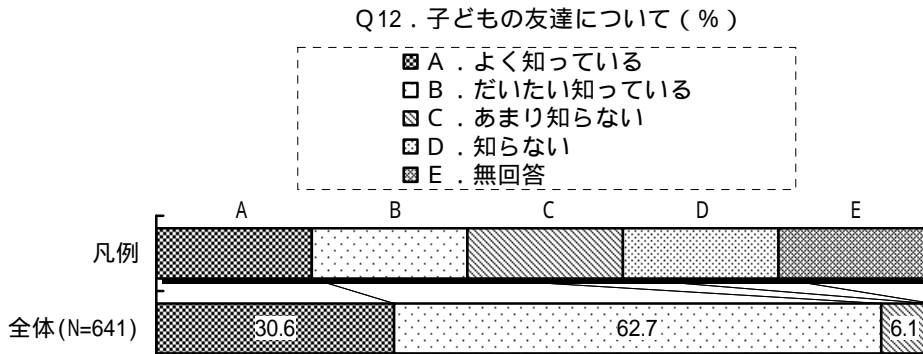
1 . 子どもの学校生活について (Q11)

子育ての楽しさについては、「とても楽しんでいると思う」が 47.1%、「まあまあ楽しんでいると思う」が 50.7%の内訳で、合計 9 割以上 (97.8%) が「楽しい」と感じている。



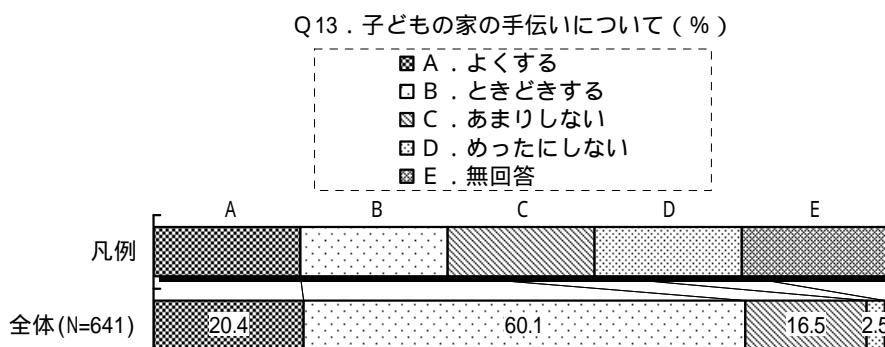
2 . 子どもの友達について (Q12)

子どもの友達については、「だいたい知っている」が 62.7%と最も多く、「よく知っている」が 30.6%となっており、9 割以上 (93.3%) がおおむね知っているとしている。



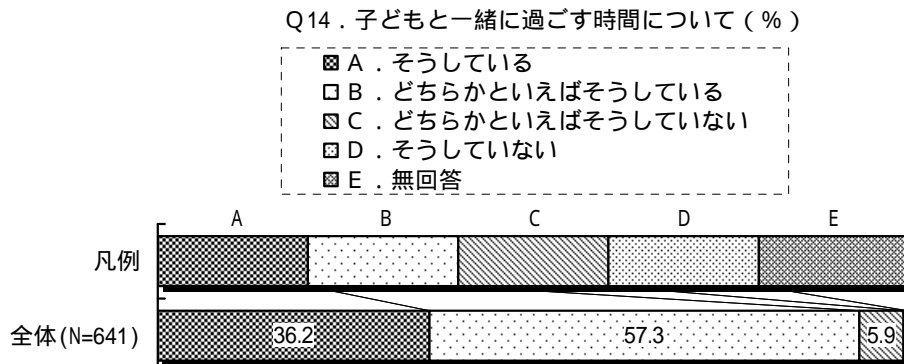
3 . 子どもの家の手伝いについて (Q13)

子どもの家の手伝いについては、「ときどきする」が 60.1%と最も多く、「よくする」が 20.4%となっており、8 割以上 (80.5%) の子どもが家の手伝いをしているとみられる。



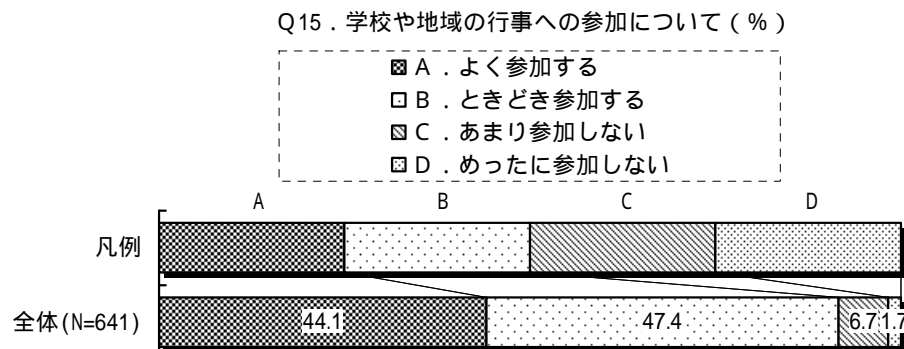
4. 子どもと一緒に過ごす時間について (Q14)

子どもと一緒に過ごす時間については、「どちらかといえばそうしている」が 57.3%と最も多く、「そうしている」が 36.2%となっており、9 割以上 (93.5%) が一緒に過ごすように意識している。



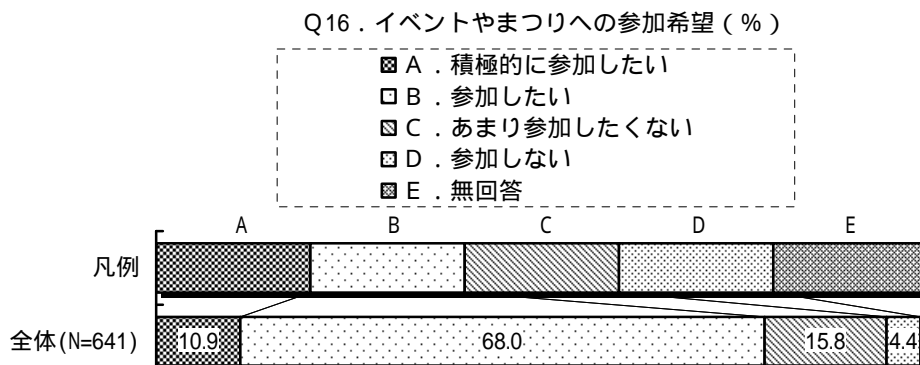
5. 学校や地域の行事への参加について (Q15)

学校や地域の行事への参加については、「ときどき参加する」が 47.4%と最も多く、「よく参加する」が 44.1%となっており、9 割以上 (91.5%) の人は何らかの形で参加している。



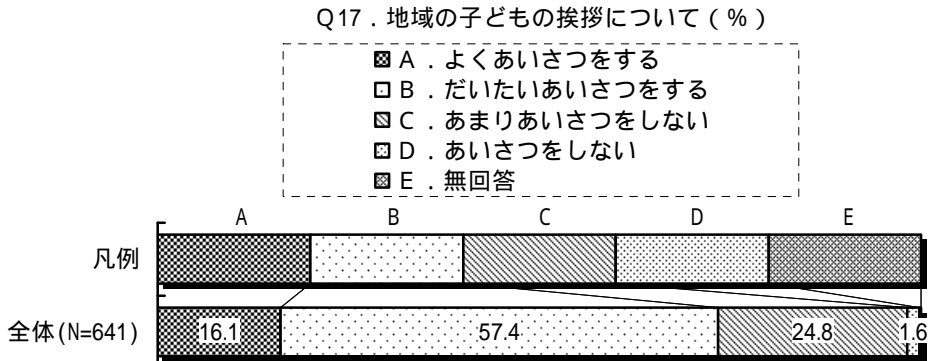
6. イベントやまつりへの参加希望 (Q16)

イベントやまつりへの参加希望については、「参加したい」が 68.0%と最も多く、「積極的に参加したい」が 10.9%となっており、合計 8 割近く (78.9%) に希望がみられる。



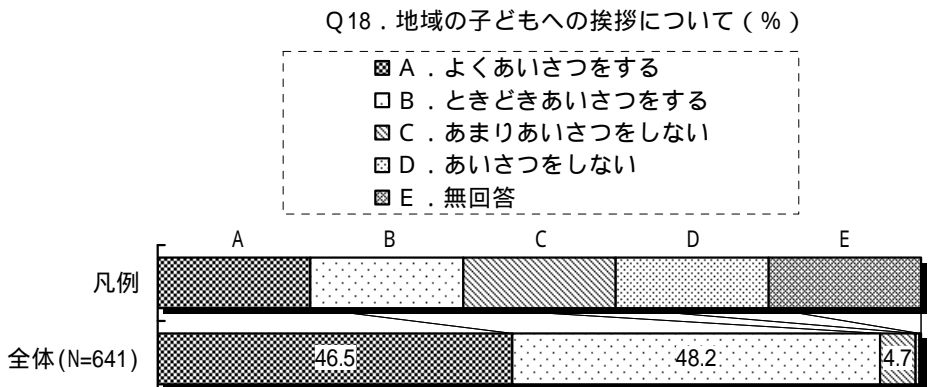
7. 地域の子どもの挨拶について (Q17)

地域の子どもの挨拶については、「だいたいあいさつをする」が 57.4%と最も多く、「よくあいさつをする」が 16.1%となっており、合計 7 割以上 (73.5%) の人は挨拶を感
じている。



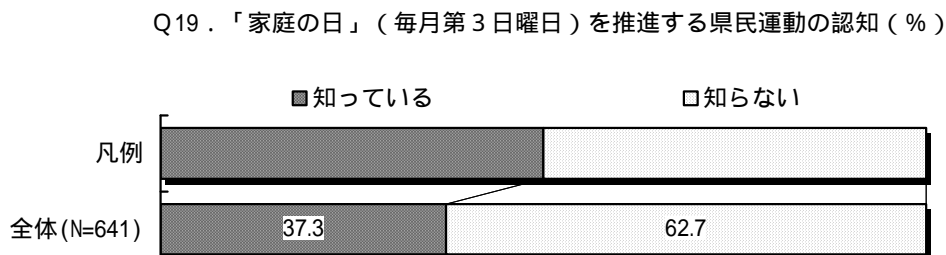
8. 地域の子どもへの挨拶について (Q18)

地域の子どもへの挨拶については、「ときどきあいさつをする」が 48.2%と最も多く、「よくあいさつをする」が 46.5%となっており、9 割以上 (94.7%) の人は子どもへ挨拶をし
ている。



9. 「家庭の日」(毎月第3日曜日)を推進する県民運動について (Q19)

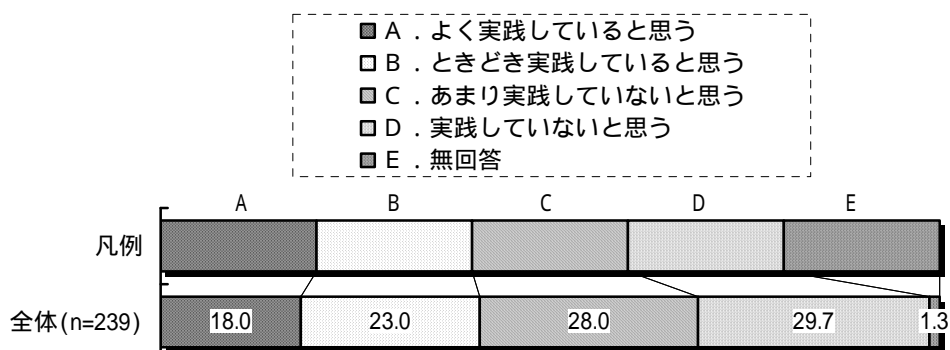
「家庭の日」(毎月第3日曜日)を推進する県民運動については、「知っている」は 37.3%、「知らない」は 62.7%の内訳となっている。



10. 「家庭の日」運動の実践について (Q20)

「家庭の日」運動の実践については、「実践していないと思う」が 29.7%と最も多く、「あまり実践していないと思う」が 28.0%となっており、6割近く(57.7%)の人は実践できていないと感じている。「よく実践していると思う」は 18.0%、「ときどき実践していると思う」は 23.0%で、実践していると感じている人の合計は 41.0%となっている。

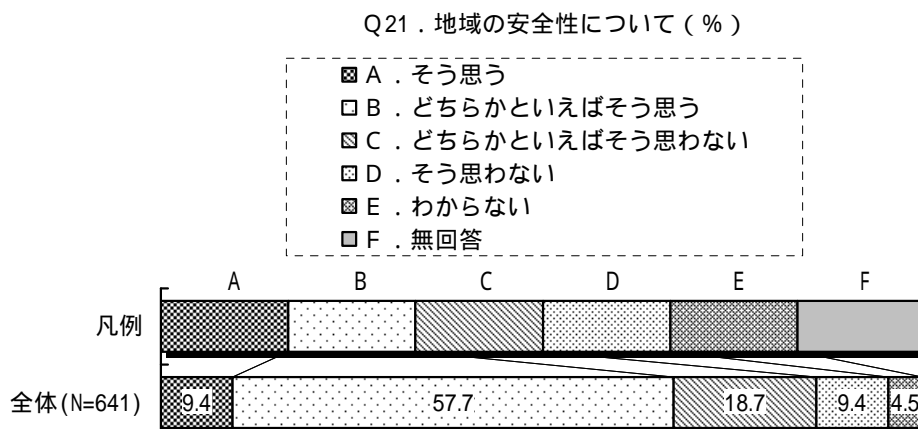
Q20. 「家庭の日」運動の実践について (%)



【 9 】 子どもの犯罪被害防止（安全対策）について

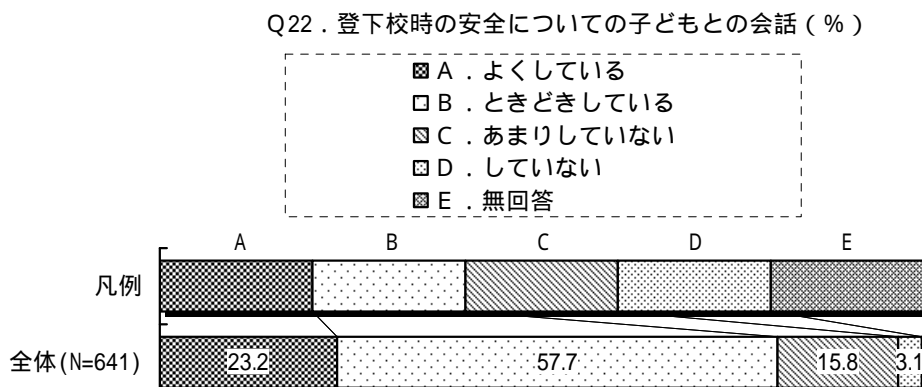
1. 地域の安全性について（Q21）

地域の安全性については、「どちらかといえばそう思う」が 57.7%と最も多く、「そう思う」が 9.4%となっており、7 割近く（67.1%）の人は安全性を認識している。



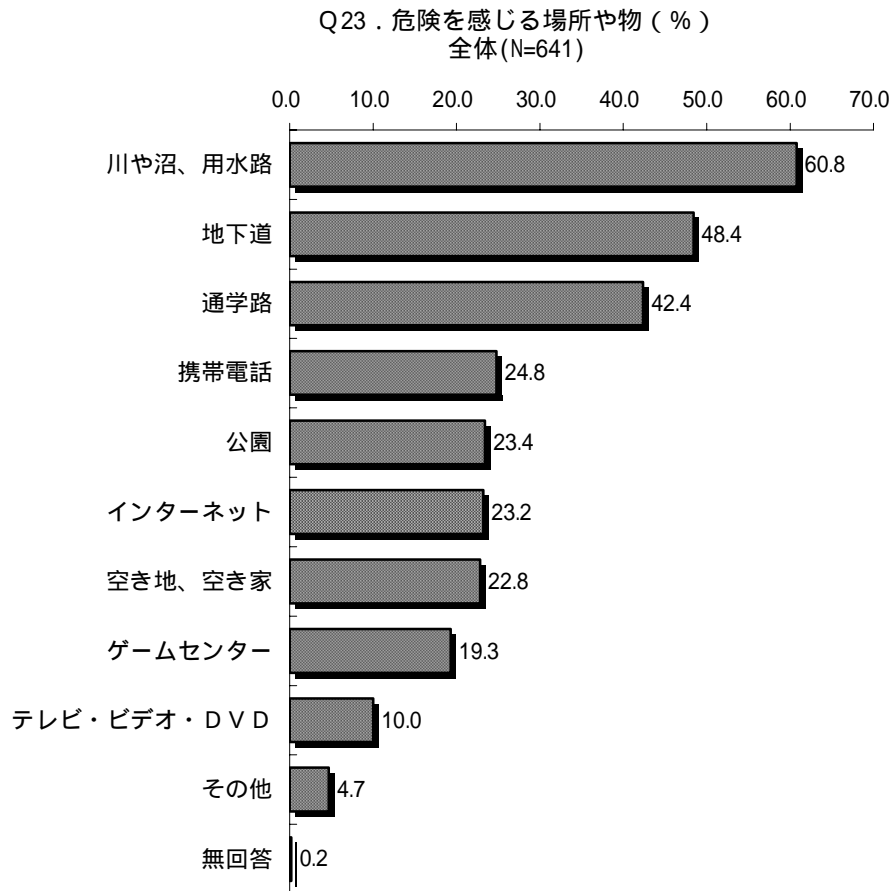
2. 登下校時の安全についての子どもとの会話について（Q22）

登下校時の安全についての子どもとの会話については、「ときどきしている」が 57.7%と最も多く、「よくしている」が 23.2%となっており、合計 8 割（80.9%）は会話をしているとみられる。



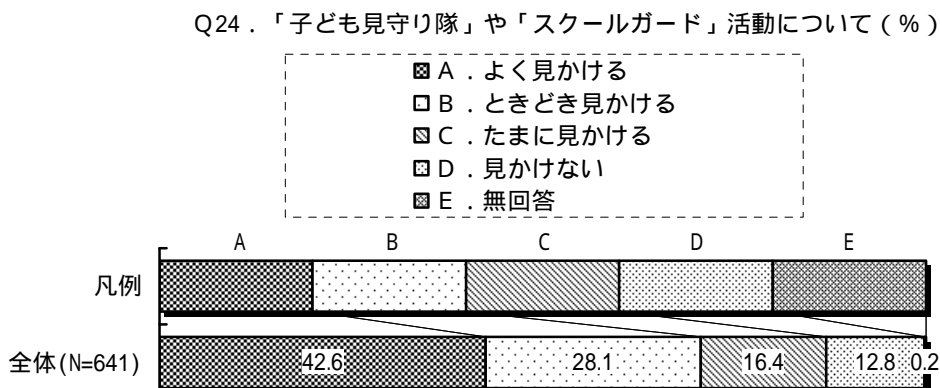
3. 危険を感じる場所や物について (Q23)

危険を感じる場所や物については、「川や沼、用水路」が60.8%と最も多く、次いで「地下道」が48.4%、「通学路」が42.4%などの順となっている。



4. 「子ども見守り隊」や「スクールガード」活動について (Q24)

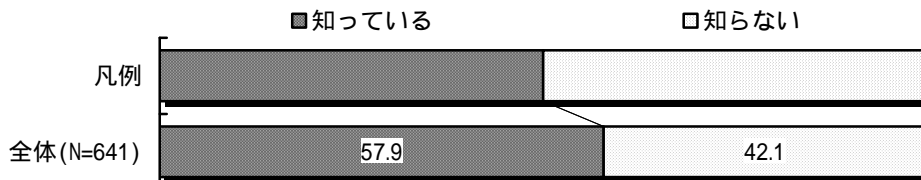
「子ども見守り隊」や「スクールガード」活動については、「よく見かける」が42.6%と最も多く、「ときどき見かける」が28.1%となっている。



5. 「地域のおじさん、おばさん運動」の認知について (Q25)

「地域のおじさん、おばさん運動」の認知については、「知っている」が 57.9%、「知らない」が 42.1%の内訳となっている。

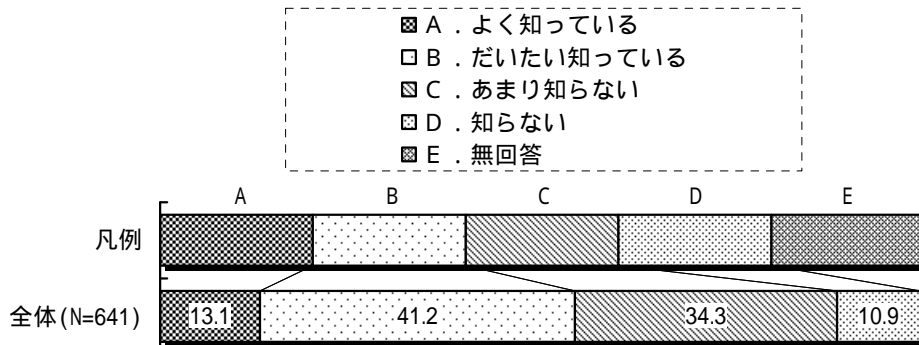
Q25. 「地域のおじさん、おばさん運動」の認知について (%)



6. 「こども110番の家」の認知について (Q26)

「こども110番の家」の認知については、「だいたい知っている」が 41.2%と最も多く、「よく知っている」が 13.1%で、合計過半数 (54.3%) が認知している。

Q26. 「こども110番の家」の認知について (%)

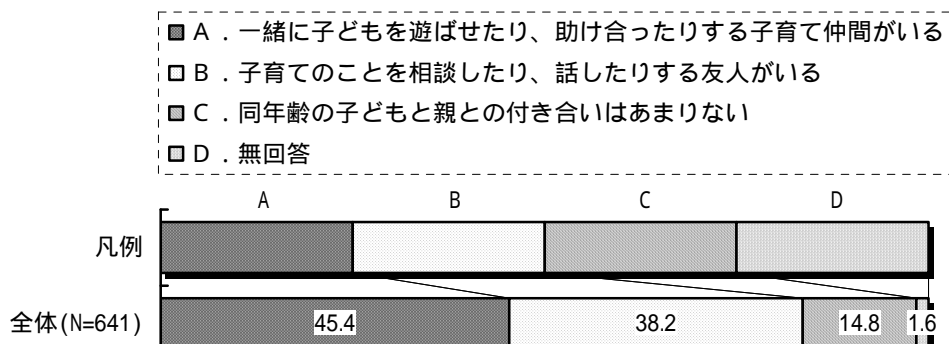


【10】地域における子育て支援について

1. 親同士のつきあい、育児のグループ等の子育ての仲間について (Q27)

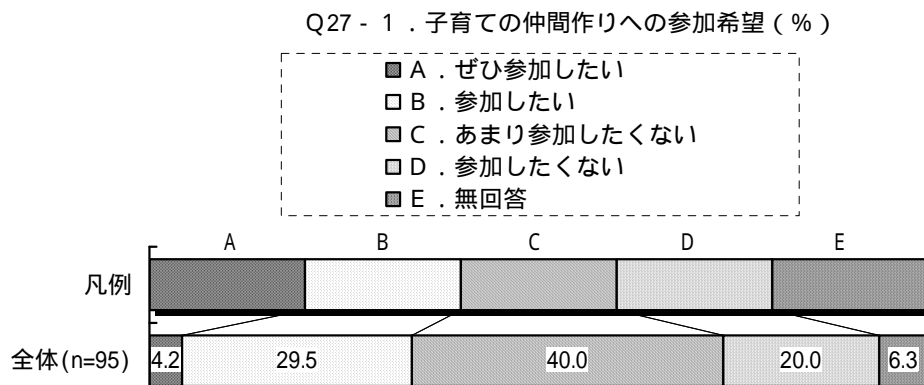
親同士のつきあい、育児のグループ等の子育ての仲間については、「一緒に子どもを遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいる」が 45.4%と最も多く、「子育てのことを相談したり、話したりする友人がいる」が 38.2%と、仲間がいる人が 8 割以上 (83.6%) となっている。

Q27. 親同士のつきあい、育児のグループ等の子育ての仲間について (%)



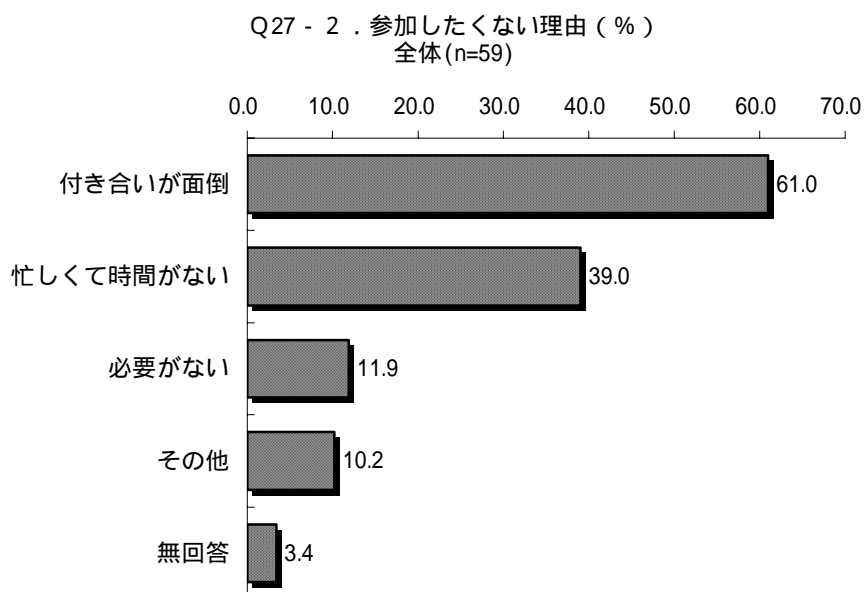
2. 子育ての仲間作りへの参加希望 (Q27-1)

子育ての仲間づくりの機会については、「参加したい」が 29.5%、「ぜひ参加したい」が 4.2% となっており、合計 3 割以上 (33.7%) が参加希望を示した。



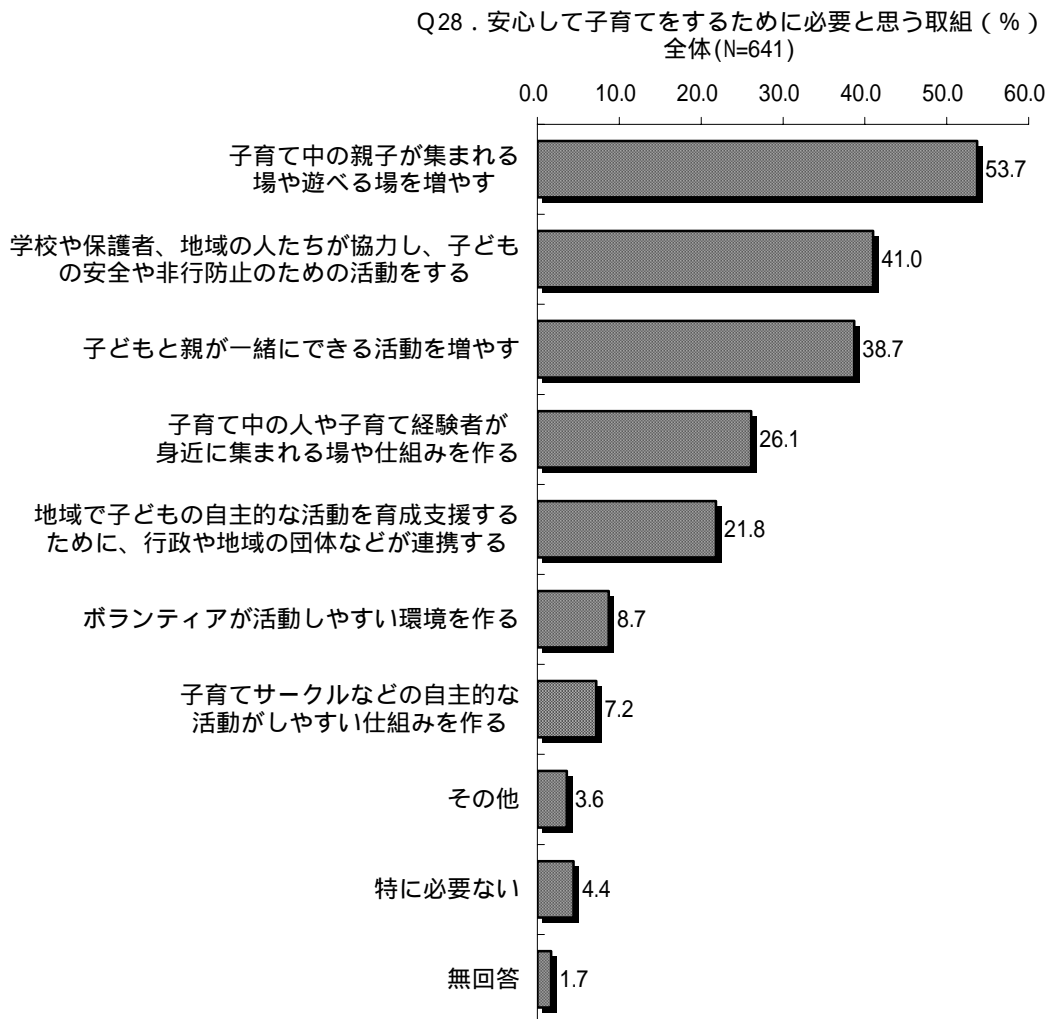
3. 参加したくない理由 (Q27-2)

参加したくない理由については、「付き合いが面倒」が 61.0%と最も多く、次いで「忙しくて時間がない」が 39.0%となっている。



4. 安心して子育てをするために必要と思う取組 (Q28)

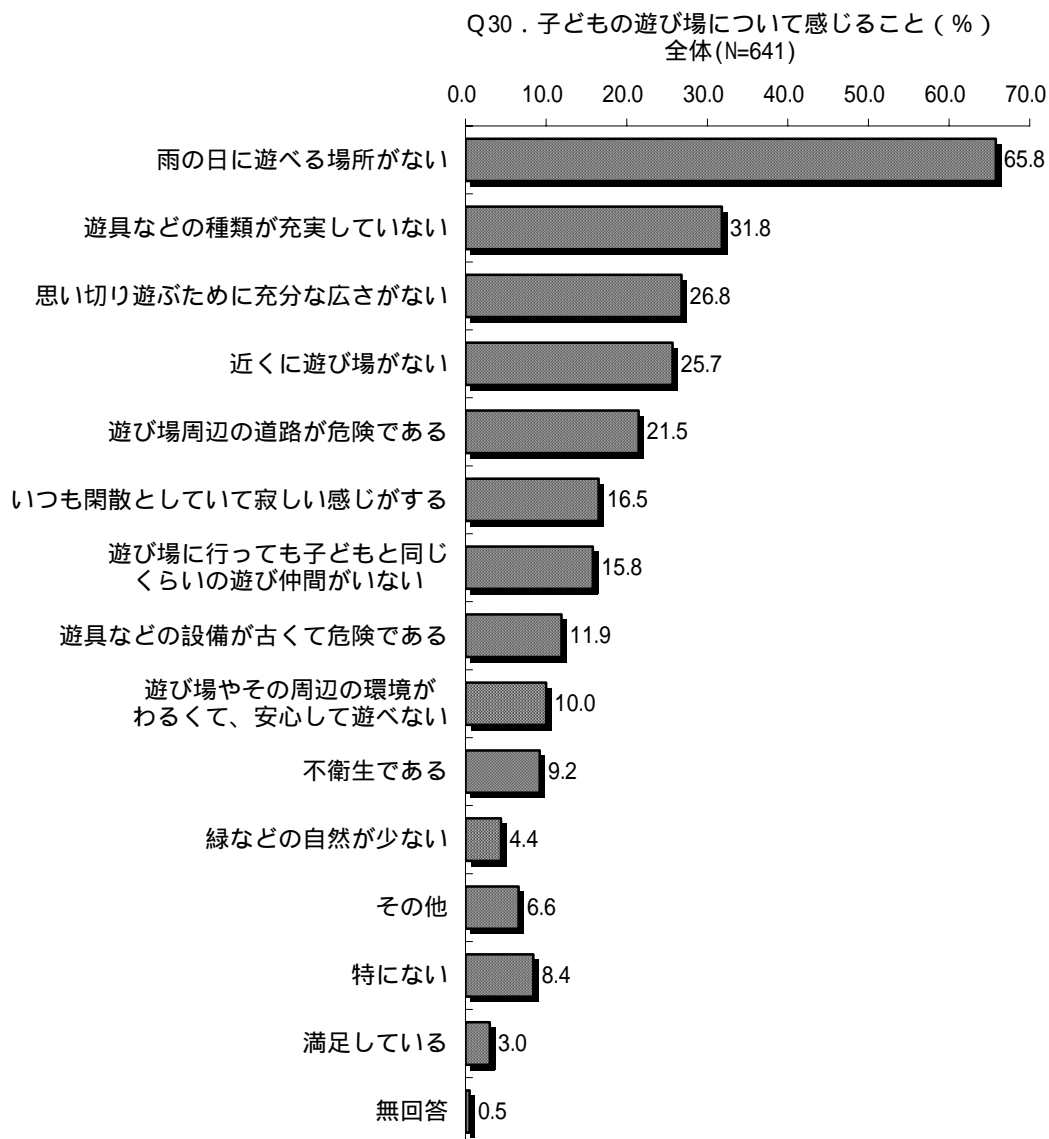
地域で必要と思われる取り組みについては、「子育て中の親子が集まれる場や遊べる場を増やす」が 53.7%と最も多く、次いで「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止のために活動をする」(41.0%)、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」(38.7%)、「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みを作る」(26.1%)などが続く。



【11】子どもの遊び場について

1. 子どもの遊び場について感じる事（Q30）

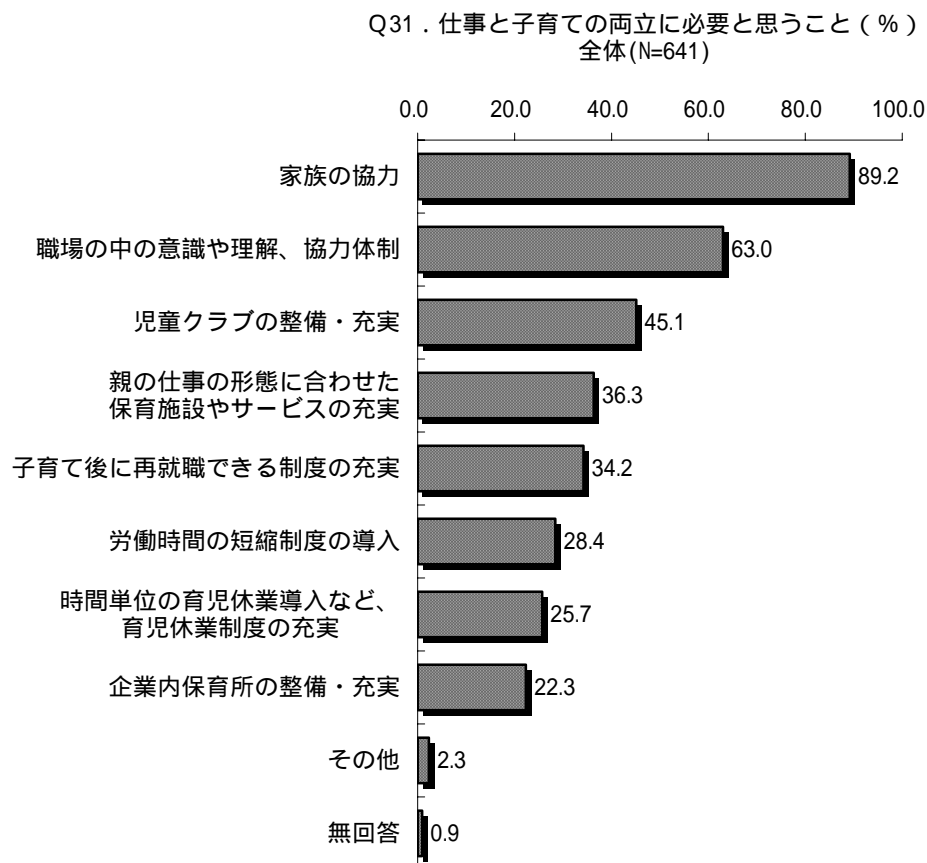
子どもの遊び場について感じる事は、「雨の日に遊べる場所がない」が65.8%と最も多く、次いで「遊具などの種類が充実していない」（31.8%）、「思い切り遊ぶため十分な広さがなお」（26.8%）、「近くに遊び場がない」（25.7%）、「遊び場周辺の道路が危険である」（21.5%）などが続く。



【12】仕事と子育ての両立について

1. 仕事と子育てを両立するために必要と思うこと (Q31)

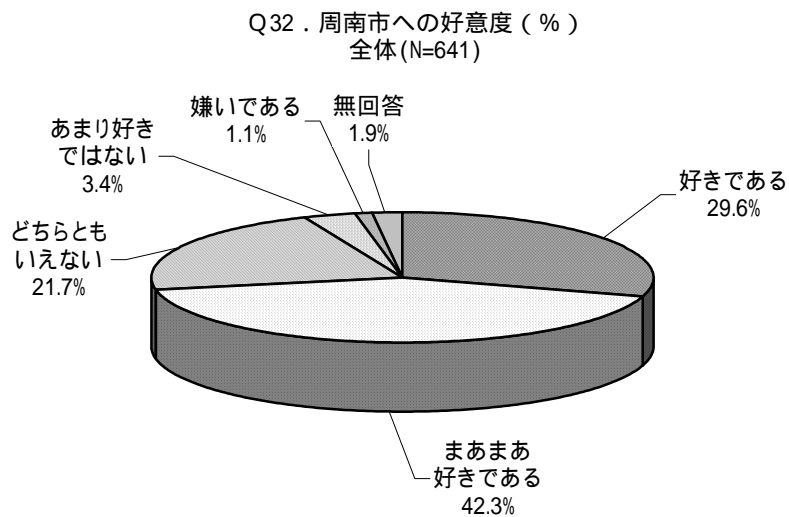
仕事と子育てを両立するために必要と思うことについては、「家族の協力」が89.2%と最も多く、以下「職場の中の意識や理解、協力体制」(63.0%)、「児童クラブの整備・充実」(45.1%)、「親の仕事や形態に合わせた保育施設やサービスの充実」(36.3%)、「子育て後に再就職できる制度の充実」(34.2%)などの順となっている。



【13】保護者及び子どもの生活に関することについて

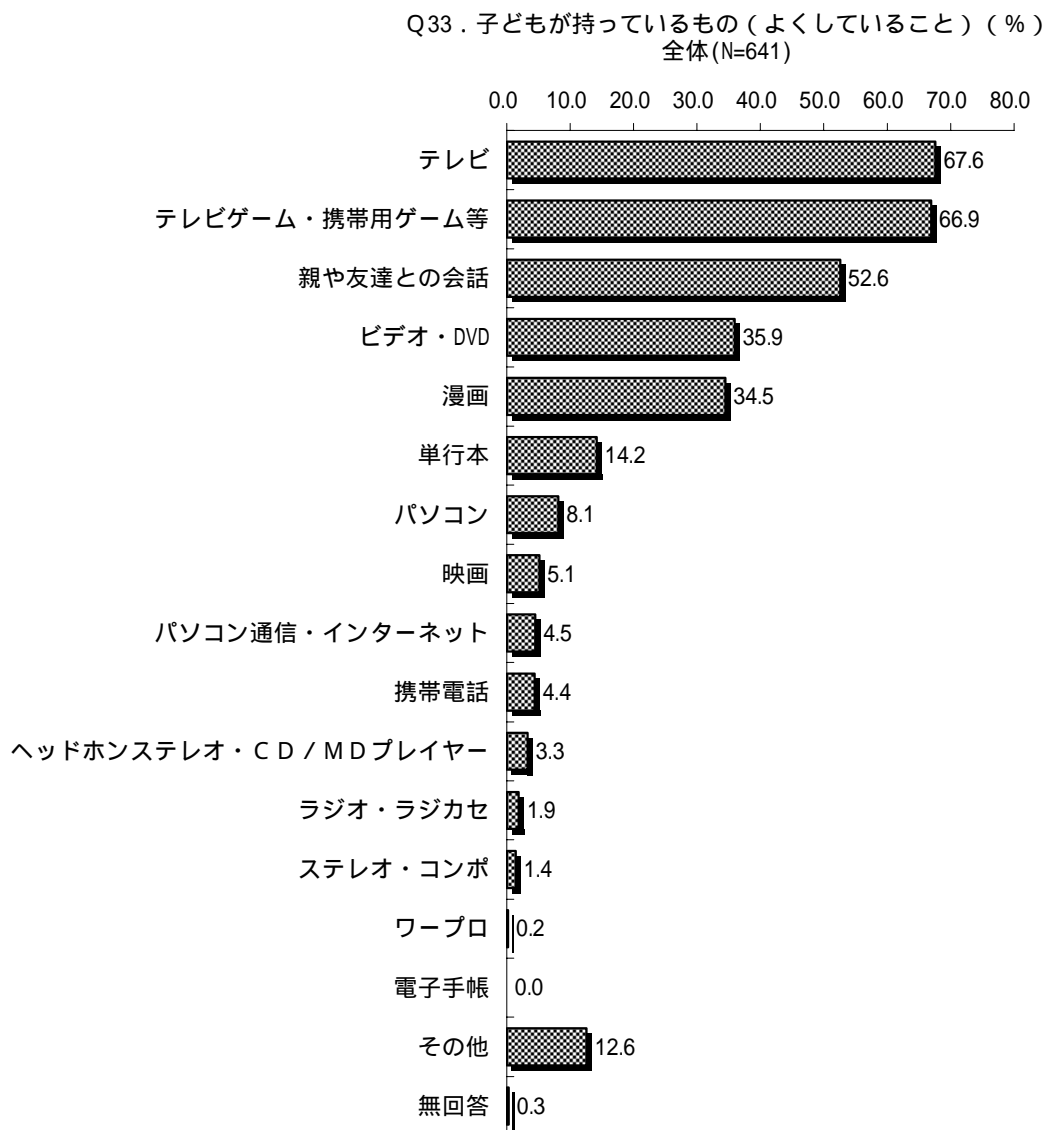
1. 周南市への好意度 (Q32)

周南市への好意度については、「まあまあ好きである」が42.3%と最も多く、「好きである」が29.6%と、合計7割以上(71.9%)は好感を持っている。



2. 子どもが持っているもの(よくしていること)(Q33)

子どもが持っているもの(よくしていること)については、「テレビ」が67.6%と最も多く、次いで「テレビゲーム・携帯用ゲーム等」が66.9%で多くなっている。以下「親や友達との会話」(52.6%)、「ビデオ・DVD」(35.9%)、「漫画」(34.5%)などが続く。

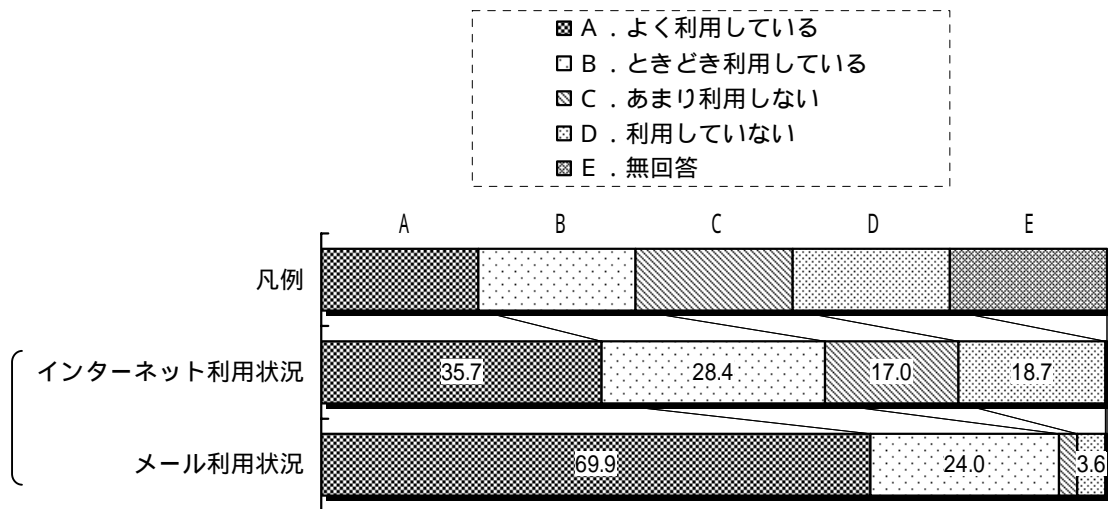


3. インターネットやメールの利用状況 (Q34・Q35)

インターネットの利用状況については、「よく利用している」が 35.7%と最も多く、「ときどき利用している」が 28.4%となっており、合計 6 割以上 (64.1%) がふだん利用している。

メールの利用状況については、「よく利用している」が 69.9%と最も多く、「ときどき利用している」が 24.0%となっており、合計 9 割以上 (93.9%) がふだん利用している。

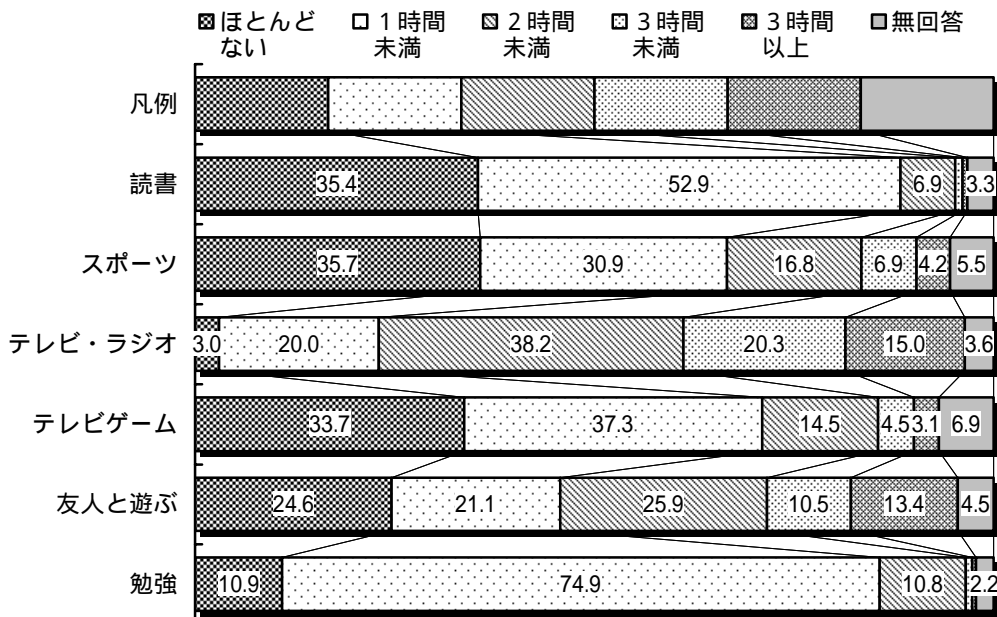
Q34・Q35. インターネットやメールの利用状況 (%)
全体(N=641)



4. 子どもの休日の過ごし方について (Q36)

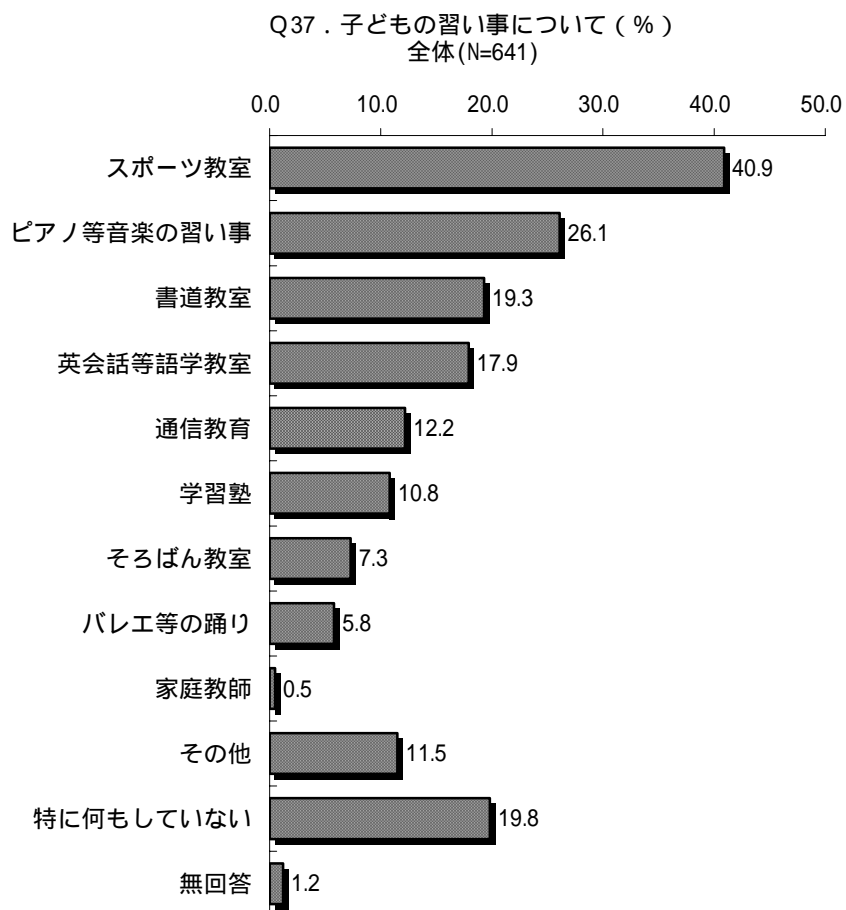
子どもの休日の過ごし方については、「勉強」は「1時間未満」が 7 割以上 (74.9%) を占めるのに対し、「テレビ・ラジオ」や「友人と遊ぶ」は 1 時間以上の占める割合が多くなっている。「読書」「スポーツ」「テレビゲーム」は「ほとんどない」「1時間未満」が主流となっている。「友人と遊ぶ」は「ほとんどない」も 24.6%みられる。

Q36. 子どもの休日の過ごし方について (%)
全体(N=641)



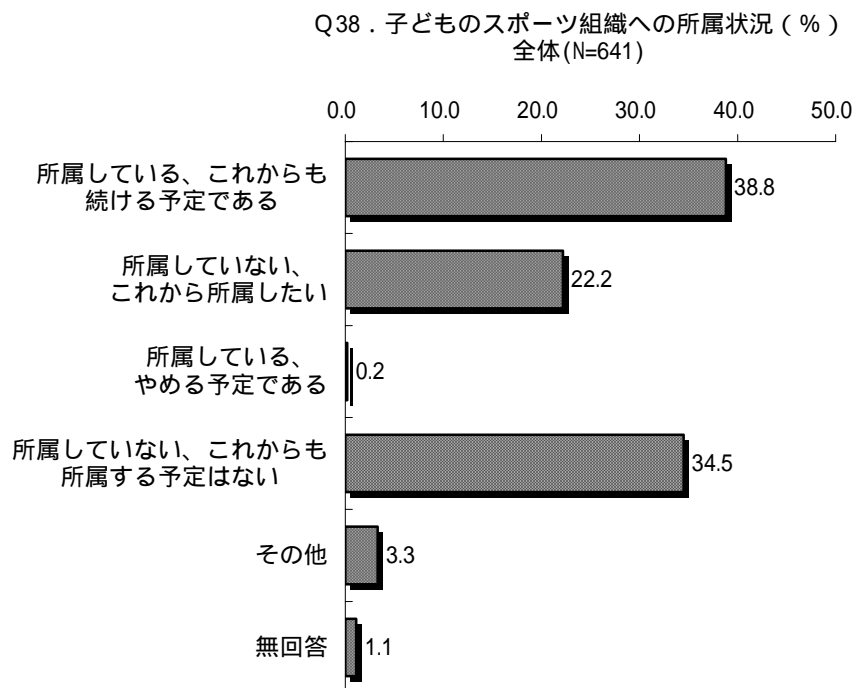
5. 子どもの習い事について (Q37)

子どもの習い事等については、「特に何もしていない」がおよそ2割であることから、8割程度が何らかの習い事等をしているとみられる。習い事等は「スポーツ教室」が40.9%と最も多く、以下「ピアノ等音楽の習い事」(26.1%)、「書道教室」(19.3%)、「英会話等語学教室」(17.9%)と続く。



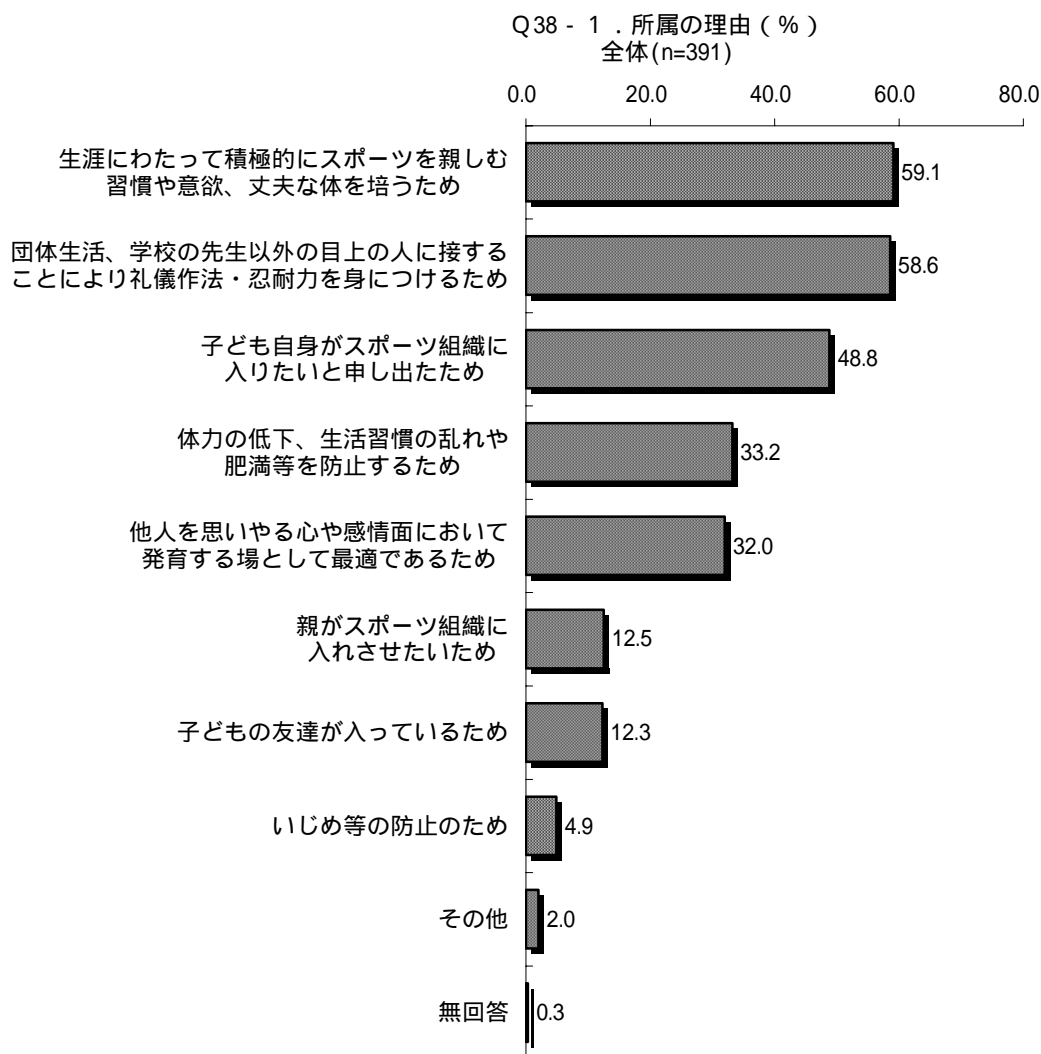
6. 子どものスポーツ組織への所属状況 (Q38)

子どものスポーツ組織への所属状況については、「所属している、これからも続ける予定である」が 38.8%と最も多く、次いで「所属していない、これから所属する予定はない」が 34.5%、「所属していない、これから所属したい」が 22.2%の内訳となっている。



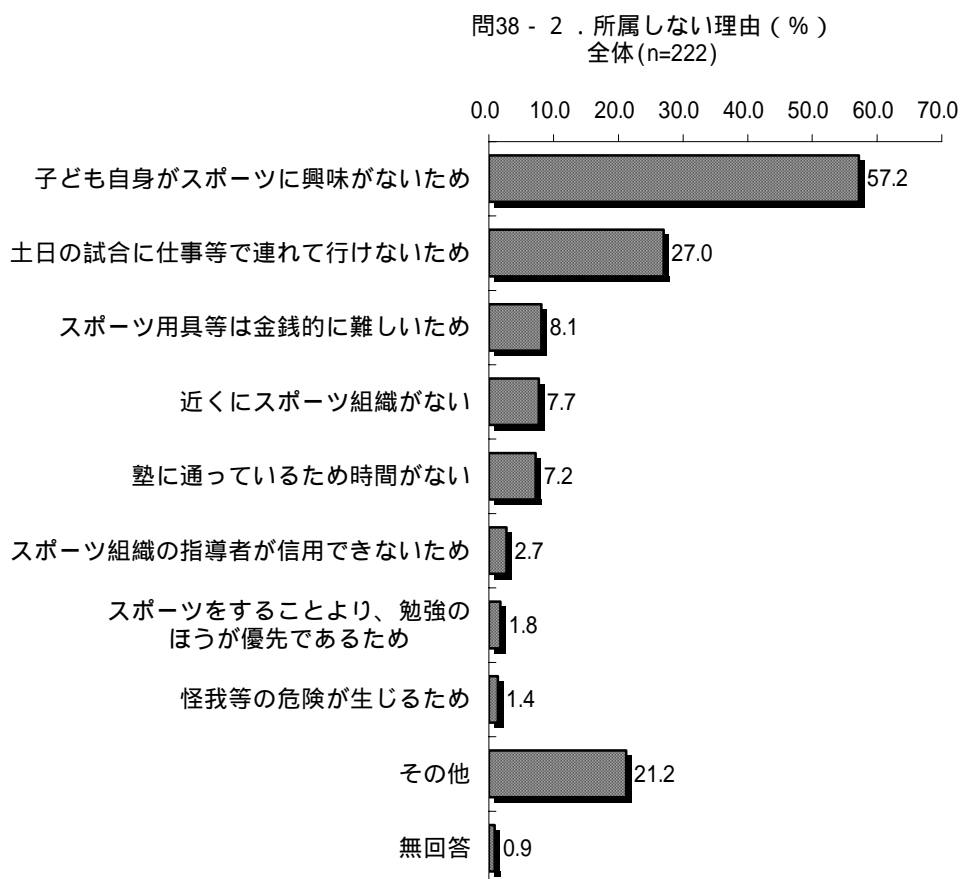
7. 所属の理由 (Q38-1)

所属の理由については、「生涯にわたって積極的にスポーツを親しむ習慣や意欲、丈夫な体を培うため」が 59.1%と最も多く、次いで「団体生活、学校の先生以外の目上の人に接することにより礼儀作法・忍耐力を身につけるため」が 58.6%、「子ども自身がスポーツ組織に入りたいと申し出たため」が 48.8%となっている。



8. 所属しない理由 (Q38-2)

所属しない理由については、「子ども自身がスポーツに興味がないため」が57.2%と最も多く、「土日の試合に仕事等で連れて行けないため」が27.0%となっているが、この他の理由は少ない。

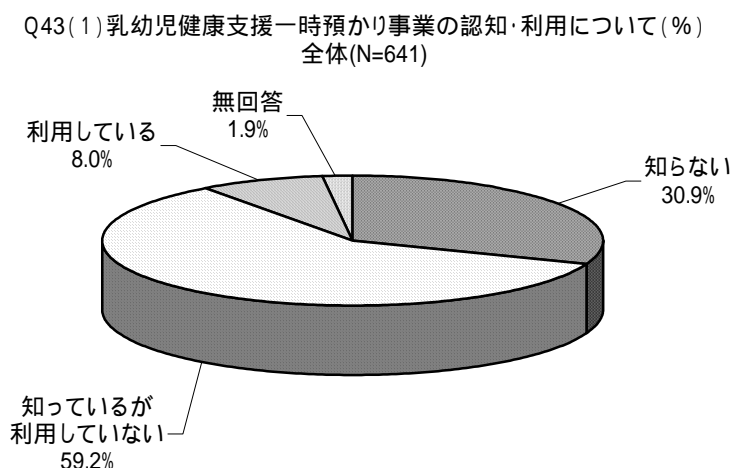


【14】保育ニーズ関することについて

1. 乳幼児健康支援一時預かり事業利用状況 (Q43)

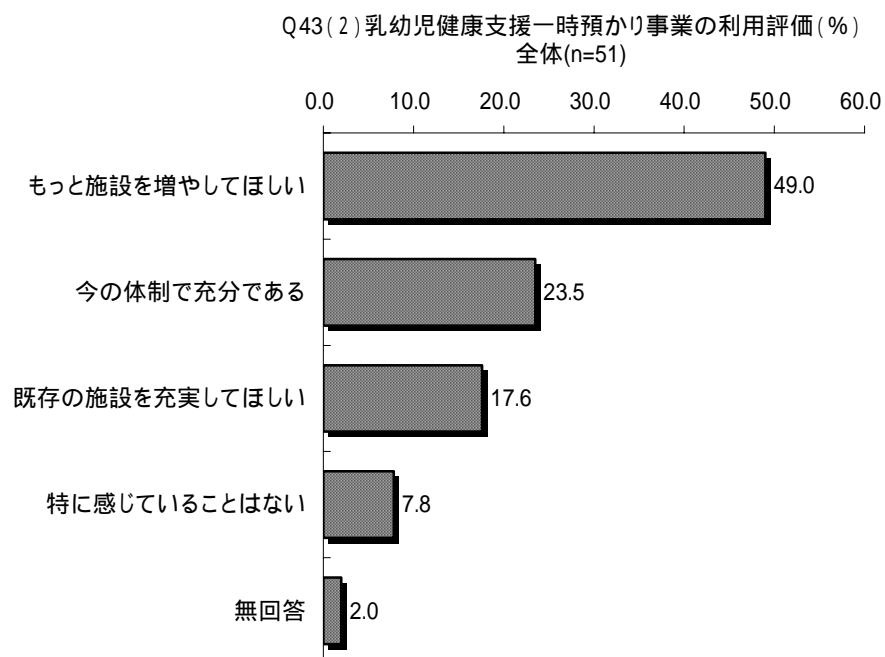
(1) 乳幼児健康支援一時預かり事業の認知・利用について

乳幼児健康支援一時預かり事業の認知・利用について、「知っているが利用していない」が59.2%で主流となっており、「知らない」が30.9%となっている。



(2) 乳幼児健康支援一時預かり事業の利用評価

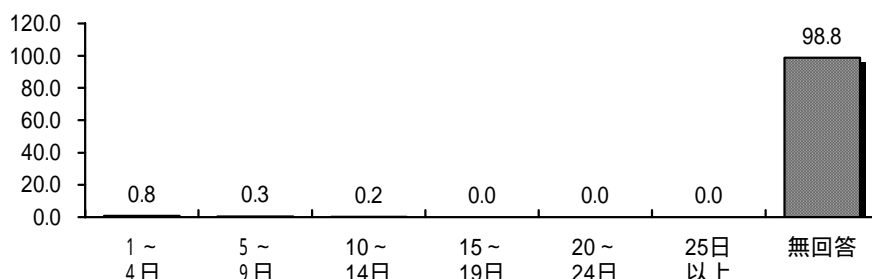
乳幼児健康支援一時預かり事業の利用評価については、「もっと施設を増やしてほしい」が49.0%で最も多く、次いで「今の体制で充分である」が23.5%となっている。



2. ベビーシッター / 月当たり利用希望日数 (Q46)

ベビーシッターの月当たり利用希望日数についてはほとんどニーズがみられない。

Q46. ベビーシッター / 月当たり利用希望日数 (%)
全体(N=641)



【15】子育て支援施策・行政サービスについて

1. 事業やサービスの認知・利用等 (Q48)

知っている事業やサービスについては、「ファミリーサポートセンター」が74.1%で最も多くなっており、次いで「こども家庭相談室・市役所の相談窓口」が62.9%、「保健センターの情報・相談サービス」が60.4%、「児童館」が59.8%などとなっている。

利用したことがある事業やサービスについては、「児童館」が22.0%で最も多くなっており、次いで「自治体が発行する子育て情報誌」が19.7%、「保健センターの情報・相談サービス」が16.4%などとなっている。

今後、利用したい事業やサービスについては、「自治体が発行する子育て情報誌」が45.2%で最も多くなっており、次いで「児童館」が39.6%、「保健センターの情報・相談サービス」が34.5%などとなっている。

Q48. 子育て支援サービスの認知・利用等 (%)

「はい」の回答割合 / 全体(N=641)	認知状況	利用状況	利用希望
保健センターの情報・相談サービス	60.4	16.4	34.5
家庭教育に関する学級・講座	27.1	7.2	29.5
教育相談センター・教育相談室	40.6	1.9	29.0
児童館	59.8	22.0	39.6
ファミリーサポートセンター	74.1	6.4	16.8
こども家庭相談室・市役所の相談窓口	62.9	4.5	23.2
自治体が発行する子育て情報誌	44.0	19.7	45.2

2. 周南市に希望する子育て支援施策（Q49）

周南市に希望する子育て支援施策については、「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」が60.8%と最も多く、次いで「子どもや親子で楽しめる公園の充実や、乳幼児連れでも活動しやすいまちづくり」（48.8%）、「児童クラブの施設等の充実」（24.6%）、「職場での育児休暇の取得など、仕事と子育てが両立しやすい環境整備」（24.0%）、「子どもが健全に育つための対策の充実」（23.6%）などの順となっている。

